



令和7年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について



厚木市教育委員会

目 次	ページ
1 調査の概要	1
2 調査結果の解釈等に関する留意事項	2
3 教科（国語、算数・数学、理科）に関する調査結果	3
(1) 小学校 国語の主な結果（平均正答率）について	4
(2) 小学校 算数の主な結果（平均正答率）について	7
(3) 小学校 理科の主な結果（平均正答率）について	10
(4) 中学校 国語の主な結果（平均正答率）について	13
(5) 中学校 数学の主な結果（平均正答率）について	16
(6) 中学校 理科の主な結果 （平均正答率及び IRT スコア）について	19
4 児童・生徒質問調査の結果	22
5 考察	31
6 あつぎの学びの充実・改善のヒント	38

令和 7 年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ、教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、各小・中学校において、校長のリーダーシップの下、各教員が指導内容・方法の改善を進める支援をしてまいります。

Ⅰ 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童・生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査 小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科
 - ※ 国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式で実施しました。
 - 中学校理科は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システムによるオンライン方式（以下「CBT」という。）で実施しました。
 - ※ 平成 30 年度までは、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を分けて調査していましたが、平成 31 年度調査から一体的に問われることとなりました。
- イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・ 児童・生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
 - ※ 児童・生徒の活用する ICT 端末等を用いた CBT で実施しました。
 - ・ 学校に対する質問調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）
 - ※ オンラインによる回答方式で実施しました。

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日

教科に関する調査（中学校理科以外）：令和7年4月17日（木）
生徒質問調査、中学校理科：令和7年4月14日（月）～17日（木）
児童質問調査：令和7年4月18日（金）～30日（水）

(6) 調査に参加した児童・生徒数

	国語	算数・数学	理科	児童・生徒質問
小学校	1,597 人	1,601 人	1,601 人	1,608 人
中学校	1,656 人	1,654 人	1,673 人	1,677 人

※ 令和7年5月1日現在 小学校第6学年在籍児童数 1,742 人

中学校第3学年在籍生徒数 1,884 人

(参考) 全国・県・市の公立学校の参加校数

	小学校	中学校
全国（公立）	18,313 校	9,311 校
神奈川県（公立）	848 校	419 校
厚 木 市	23 校	13 校

2 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童・生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要です。

また、平均正答数（※1）及び平均正答率（※2）については、各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要です。

※1 平均正答数は、児童・生徒の正答数の平均の値です。

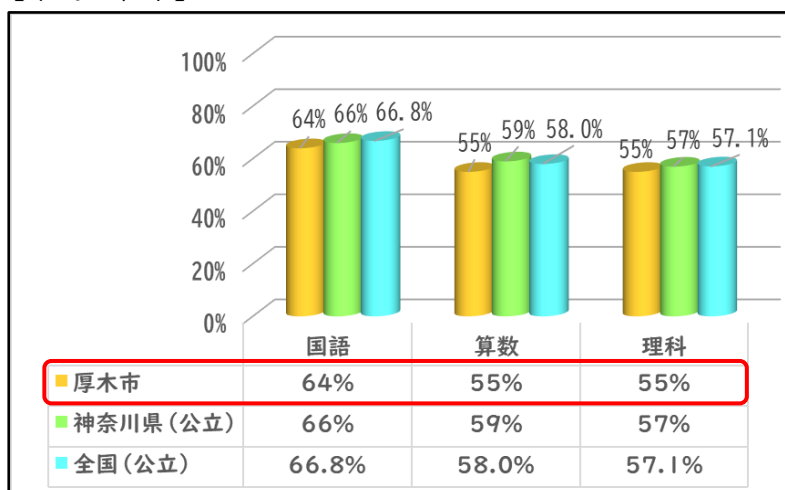
※2 平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）です。

県及び市の値は、小数第1位を四捨五入した整数値で国から提供されています。

3 教科（国語、算数・数学、理科）に関する調査結果

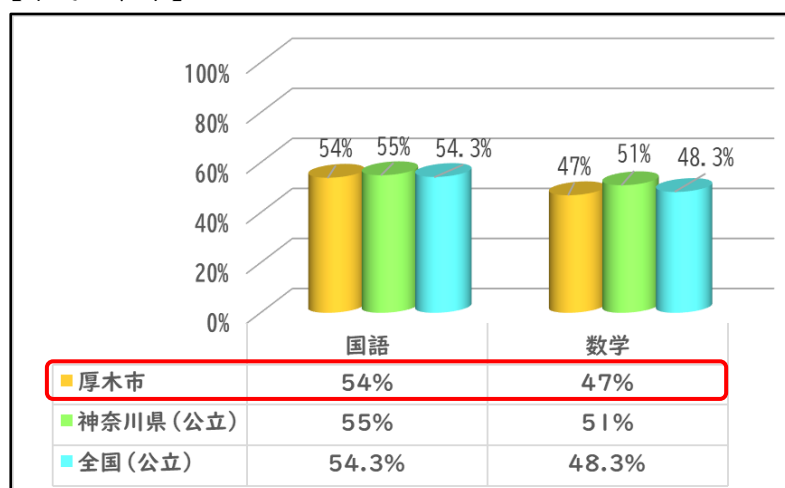
小学校

【平均正答率】

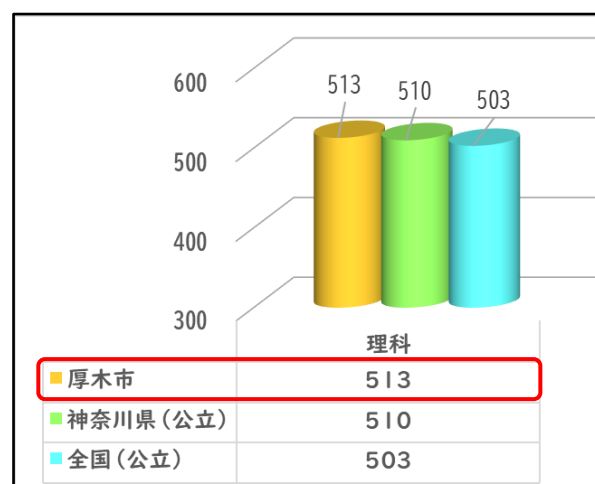


中学校

【平均正答率】



【平均 IRT スコア (※ 3)】



※ 3 IRT (項目反応理論) は、一人一人の問題の正誤状況を活用し、調査に取り組んだ人の学力を測定する方法です。

IRT スコアは、IRT (項目反応理論) に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500 を基準にした得点を表すものです。

平均 IRT スコアは、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとったものです。

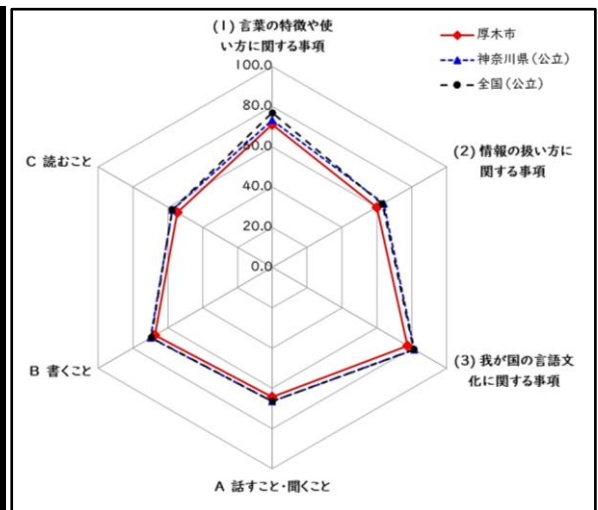
(1) 小学校 国語の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の内容】

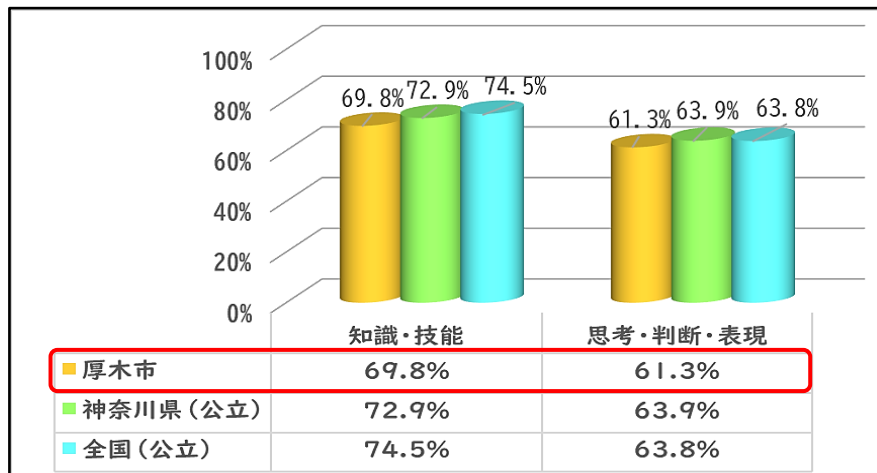
(単位：%)

分類	学習指導要領の内容					
	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等		
区分	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
厚木市	71.0	59.9	77.5	64.2	67.4	54.6
神奈川県 (公立)	73.3	63.7	81.3	66.5	69.9	57.5
全国(公立)	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5

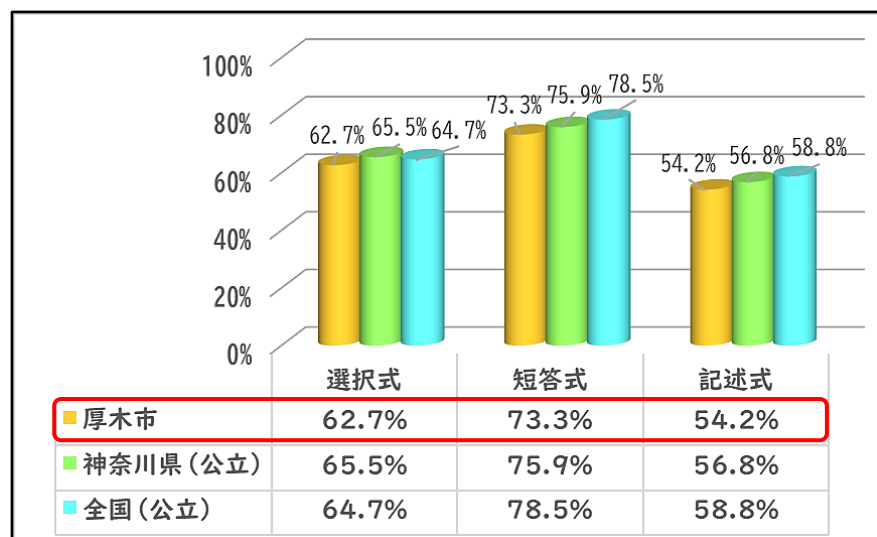
(単位：%)



【評価の観点】



【問題形式】



【問題例】

【小学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

2 伝統工芸品について推薦するちらしを書く 設問二

〔出題の趣旨〕

図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	83.0%	83.2%	81.8%	+1.2

図と言葉を合わせて示すことで、自分の考えが伝わりやすくなることを捉えることはできていると考えられます。

【小学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

3 複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめる(言葉の変化) 設問三(1)

〔出題の趣旨〕

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	39.8%	42.7%	40.8%	-1.0

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに令和5年度調査から引き続き課題があると考えられます。

【小学校 国語】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

2 伝統工芸品について推薦するちらしを書く 設問四イ

〔出題の趣旨〕

学年別漢字配当表※に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

※ 学年別漢字配当表は、小学校で学習する漢字を各学年に割り当てた表であり、各学年では、前の学年に配当された漢字を書くことを身に付けるよう指導することとされています。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	65.8%	66.7%	72.1%	-6.3

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があると考えられます。

【小学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において最も無解答率が高い問題

3 複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめる（言葉の変化） 設問三（2）

〔出題の趣旨〕

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	52.1%	53.5%	56.3%	-4.2
無解答率	18.7%	20.2%	16.2%	+2.5

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに、令和5年度調査から引き続き課題があると考えられます。

（令和5年度【小学校】国語2 平均正答率 67.6%）

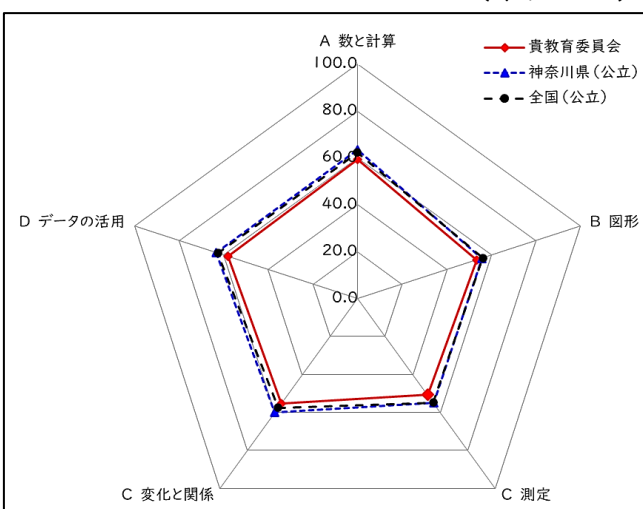
(2) 小学校 算数の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

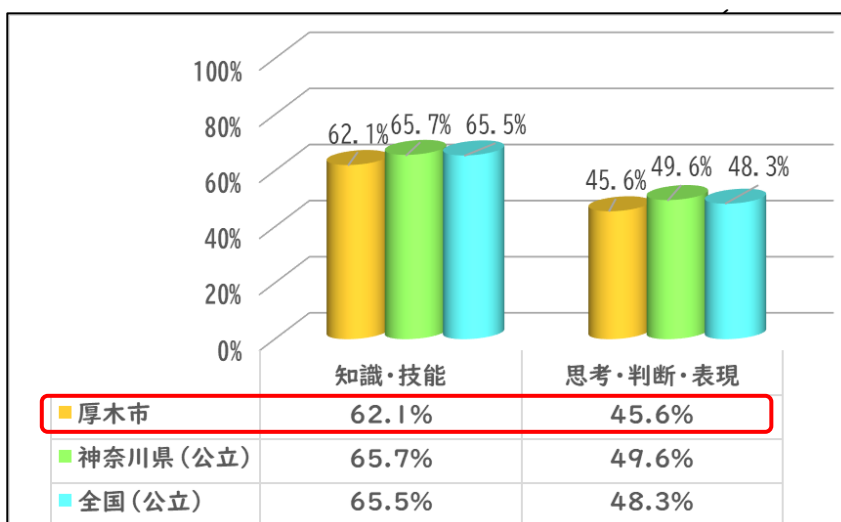
(単位：％)

分類	学習指導要領の領域				
区分	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
厚木市	59.3	53.3	50.8	55.3	57.9
神奈川県 (公立)	63.5	55.8	55.1	59.9	63.2
全国 (公立)	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6

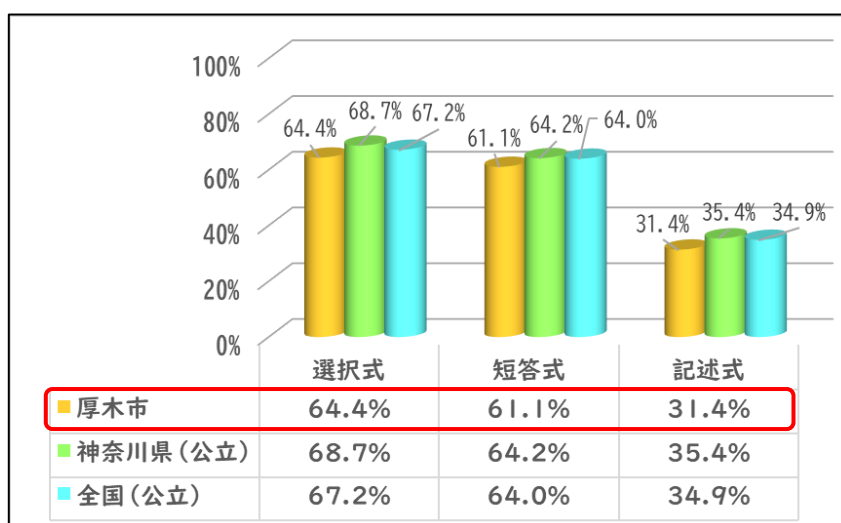
(単位：％)



【評価の観点】



【問題形式】



【問題例】

【小学校 算数】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

- ④ 日常の事象について伴って変わる二つの数量の関係に着目して考察すること 設問(1)
 〔出題の趣旨〕
 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる
 〔学習指導要領の領域〕
 A 数と計算 C 変化と関係 D データの活用
 〔評価の観点〕
 思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	81.2%	84.5%	82.8%	-1.6

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできていると考えられます。

【小学校 算数】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題
 本市、全国及び神奈川県において最も無解答率が高い問題

- ③ 計算の仕方について統合的・発展的に考察すること(小数と分数) 設問(2)
 〔出題の趣旨〕
 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
 〔学習指導要領の領域〕
 A 数と計算
 〔評価の観点〕
 思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	20.5%	24.7%	23.0%	-2.5
無解答率	16.1%	16.9%	15.7%	+0.4

分数の加法について、共通する単位分数※を見だし、加数※と被加数※が、共通する単位分数の幾つ分かを記述することに課題があると考えられます。

※単位分数：もとにする大きさの分数 ※加数：加える数 ※被加数：加えられる数

【小学校 算数】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

2 図形を構成する要素に着目し図形を考察すること（多角形） 設問（1）

〔出題の趣旨〕

平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

B 図形

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	52.4%	55.5%	58.3%	-5.9

平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに課題があると考えられます。

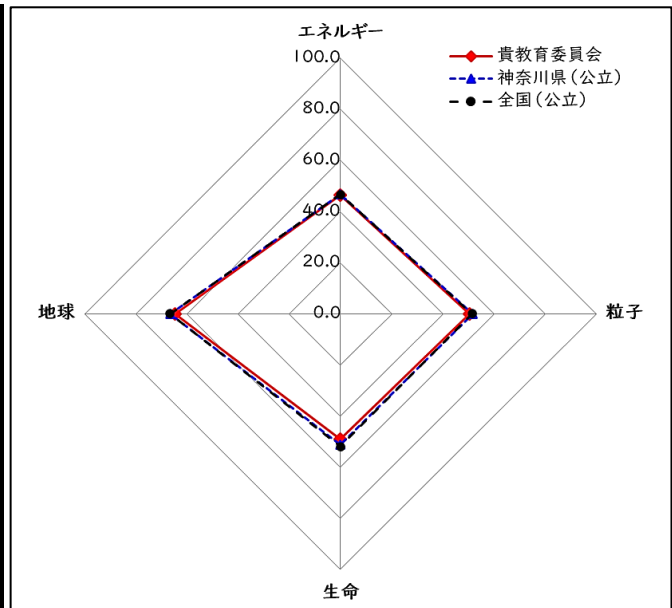
(3) 小学校 理科の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

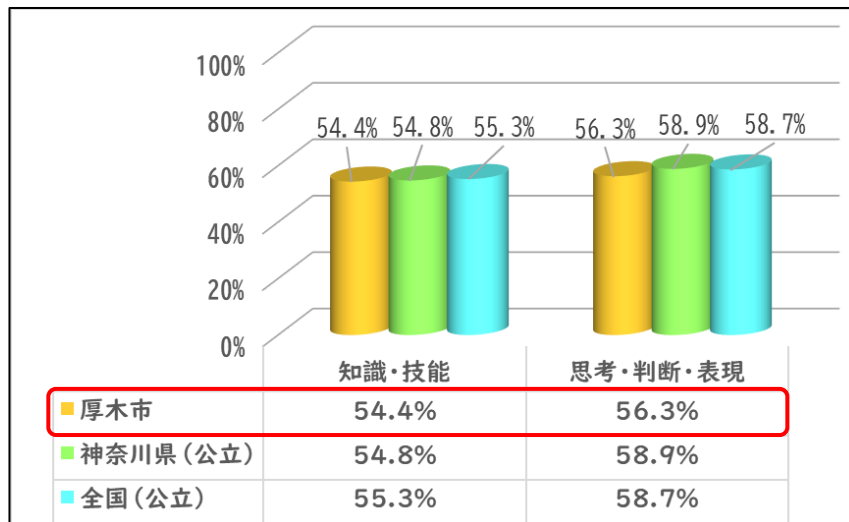
(単位：％)

分 類	学習指導要領の区分・領域			
	A 区分		B 区分	
区 分	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
厚木市	46.3	50.4	49.1	64.9
神奈川県(公立)	46.6	51.7	51.2	66.6
全国(公立)	46.7	51.4	52.0	66.7

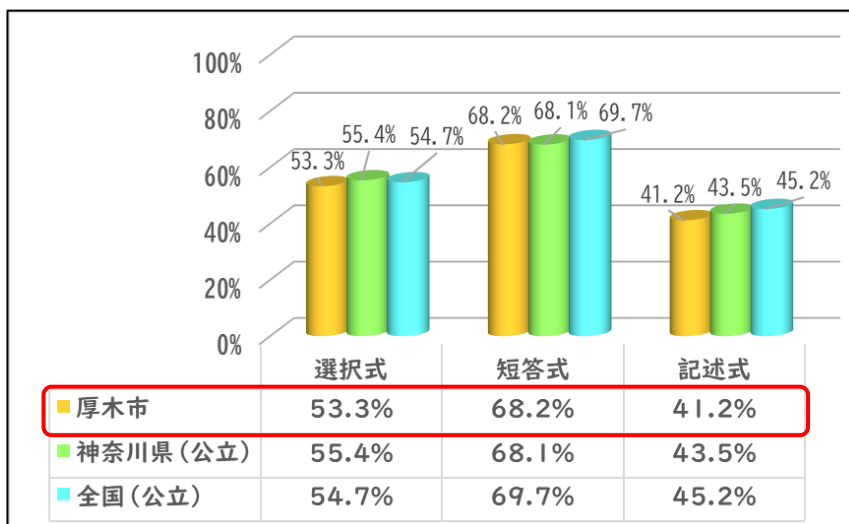
(単位：％)



【評価の観点】



【問題形式】



【問題例】

【小学校 理科】 本市において平均正答率が最も高い問題

2	電気の性質を活用したものづくり(エネルギーに関する問題) 設問(3)
〔出題の趣旨〕 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身に付いているかどうかをみる。	
〔学習指導要領の領域〕 A区分「エネルギー」を柱とする領域	
〔評価の観点〕 知識・技能	

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	79.5%	76.7%	78.0%	+1.5

電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることが知識として身に付いています。

【小学校 理科】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

2	電気の性質を活用したものづくり(エネルギーに関する問題) 設問(1)
〔出題の趣旨〕 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを知識が身に付いているかどうかをみる。	
〔学習指導要領の領域〕 A区分「エネルギー」を柱とする領域 「粒子」を柱とする領域	
〔評価の観点〕 知識・技能	

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	9.6%	10.5%	10.6%	-1.0

電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題があると考えられます。

【小学校 理科】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題
本市、全国及び神奈川県において最も無解答率が高い問題

Ⅰ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違い（地球に関する問題） 設問（２）
〔出題の趣旨〕
赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる。
〔学習指導要領の領域〕
Ｂ区分「地球」を柱とする領域
〔評価の観点〕
思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	55.8%	56.2%	60.5%	-4.7
無解答率	9.8%	9.6%	8.5%	+1.3

水のしみ込み方の違いについて【結果】を基に考察し、【問題に対するまとめ】の理由を適切に表現することに課題があると考えられます。

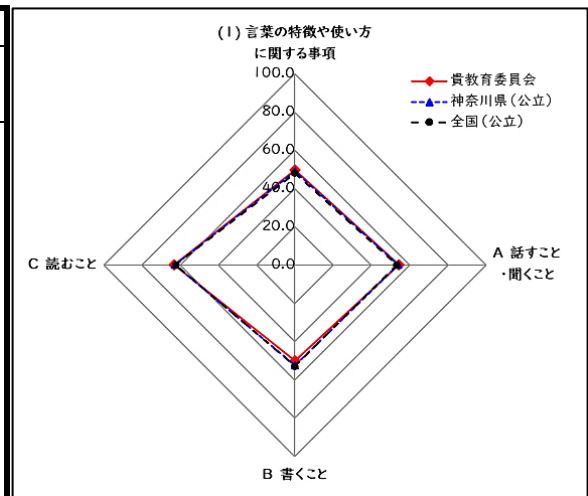
(4) 中学校 国語の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の内容】

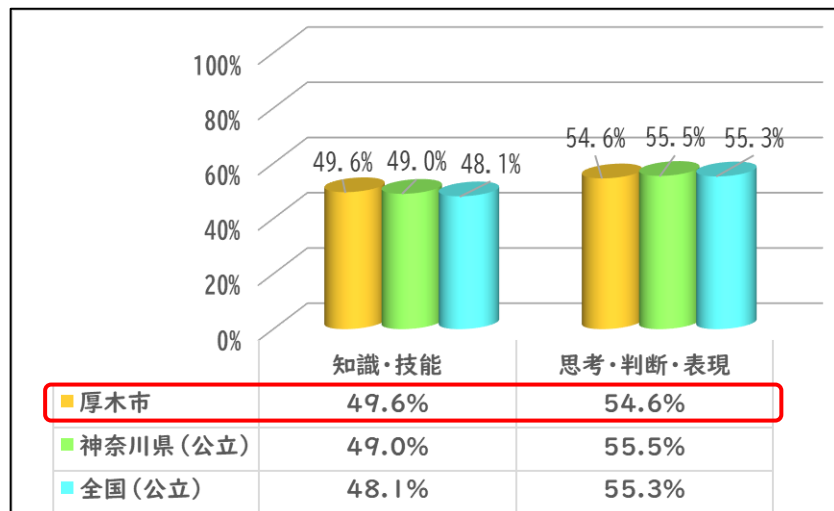
(単位：%)

(単位：%)

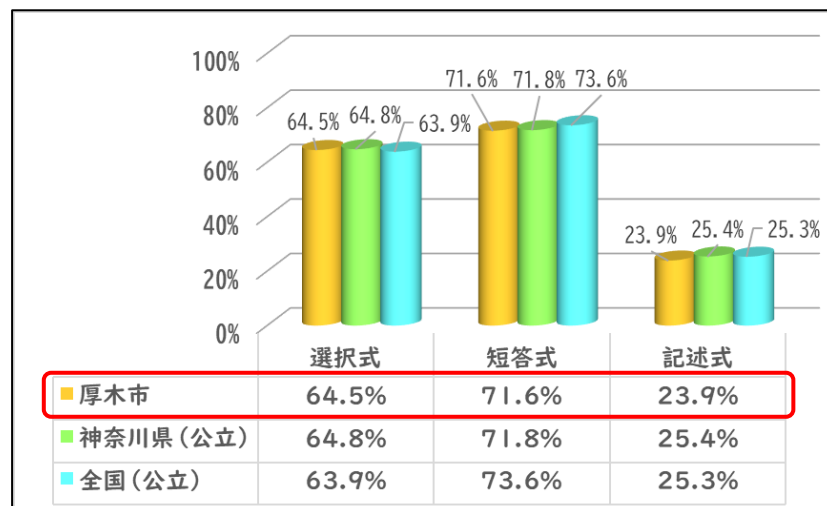
分 類	学習指導要領の内容					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
区 分	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
厚木市	49.6	—	—	54.2	50.0	63.0
神奈川県 (公立)	49.0	—	—	53.9	52.3	62.9
全国(公立)	48.1	—	—	53.2	52.8	62.3



【評価の観点】



【問題形式】



【問題例】

【中学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

③ 文学的な文章を読む(「二人の兄弟」) 設問二

〔出題の趣旨〕

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	91.7%	90.3%	89.9%	+1.8

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできています。

【中学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

③ 文学的な文章を読む(「二人の兄弟」) 設問四

〔出題の趣旨〕

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	18.4%	18.1%	17.1%	+1.3

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては、令和4年度【小学校】調査及び令和5年度【中学校】調査に引き続き課題があると考えられます。
(令和4年度小学校国語 ②二 平均正答率 68.5%、令和5年度中学校国語 ④三 平均正答率 51.8%)

【中学校 国語】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題
本市、全国及び神奈川県において最も無解答率が高い問題

4 手紙を推敲する（「職場体験活動のお礼状」） 設問一

〔出題の趣旨〕

読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	51.4%	53.3%	57.3%	-5.9
無解答率	38.9%	36.3%	33.5%	+5.4

読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題があると考えられます。

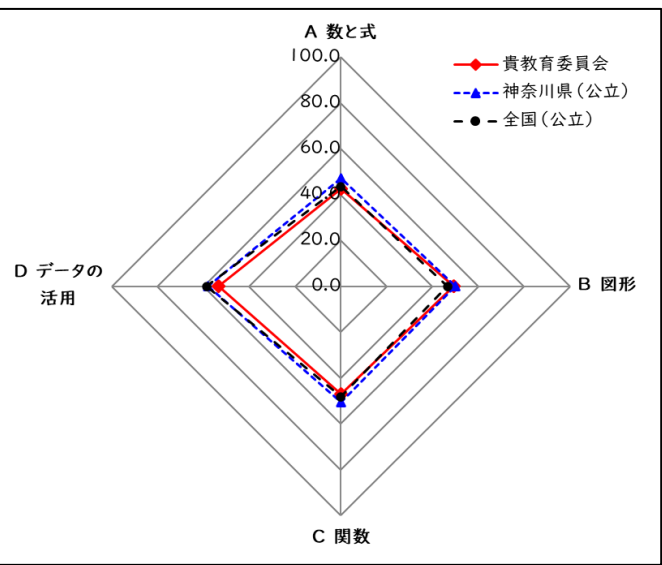
(5) 中学校 数学の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

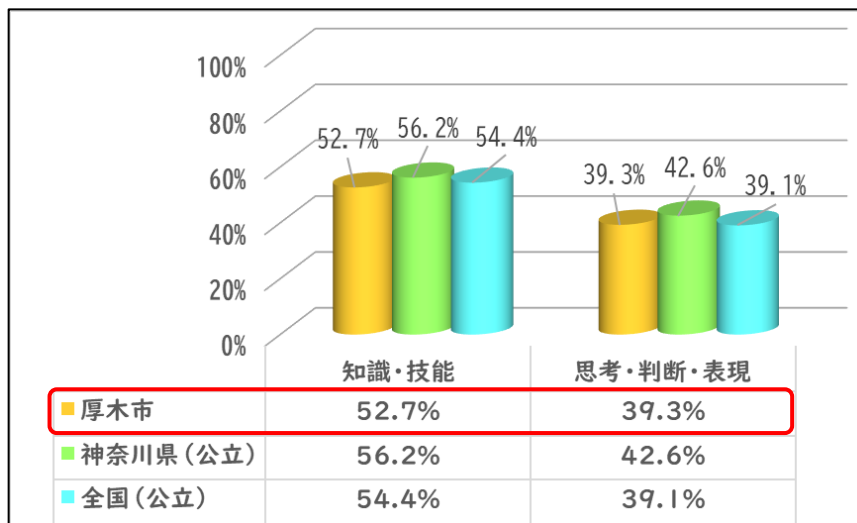
(単位：%)

(単位：%)

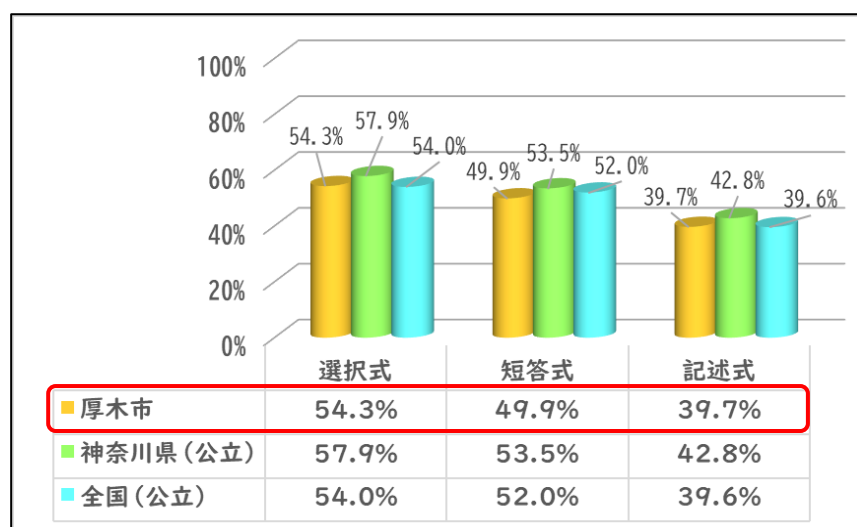
分類	学習指導要領の領域			
区分	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
厚木市	42.6	49.2	47.0	53.2
神奈川県 (公立)	47.1	50.2	50.5	58.1
全国(公立)	43.5	46.5	48.2	58.6



【評価の観点】



【問題形式】



【問題例】

【中学校 数学】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

7 不確定な事象の起こりやすさを捉え考察し判断すること(じゃんけんカードゲーム) 設問(1)

〔出題の趣旨〕

必ず起こる事象の確率について理解しているかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

D データの活用

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	79.3%	79.0%	77.4%	+1.9

必ず起こる事柄の確率について理解できていると考えられます。

【中学校 数学】 本市において平均正答率が最も低い問題

全国(公立)の平均正答率との差が最も大きい問題

5 相対度数

〔出題の趣旨〕

相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

D データの活用

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	26.8%	38.3%	42.5%	-15.7

相対度数の意味の理解については、平成29年度【中学校】調査に引き続き課題があると考えられます。(平成29年度【中学校】数学A 14 (2) 平均正答率38.9%)

【中学校 数学】本市、全国及び神奈川県において最も無解答率が高い問題

- 8 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること（新しい駅）
設問（2）
〔出題の趣旨〕
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
〔学習指導要領の領域〕
C 関数
〔評価の観点〕
思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	37.7%	40.3%	38.0%	-0.3
無解答率	35.1%	32.0%	35.0%	+0.1

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題があると考えられます。

（平成29年度【中学校】数学B 3（2）平均正答率17.3%）

（令和3年度【中学校】数学 7（2）平均正答率26.3%）

（令和4年度【中学校】数学 8（2）平均正答率36.7%）

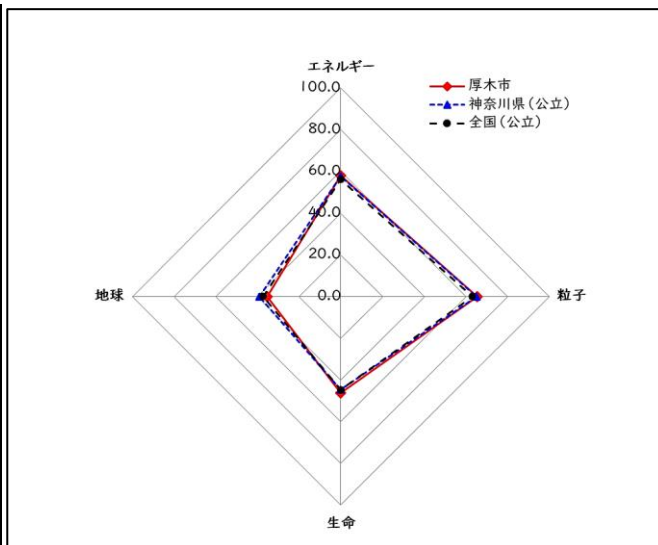
(6) 中学校 理科の主な結果（平均正答率及び IRT スコア）について

【学習指導要領の領域】

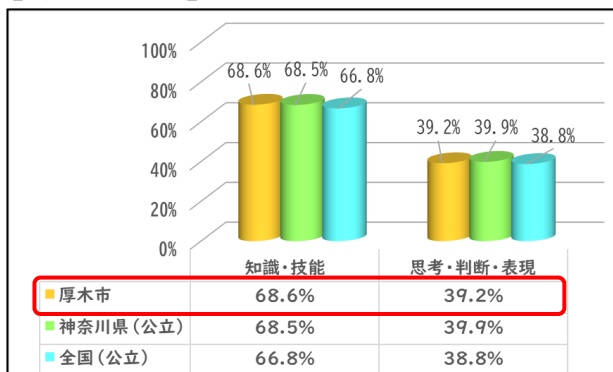
(単位：％)

(単位：％)

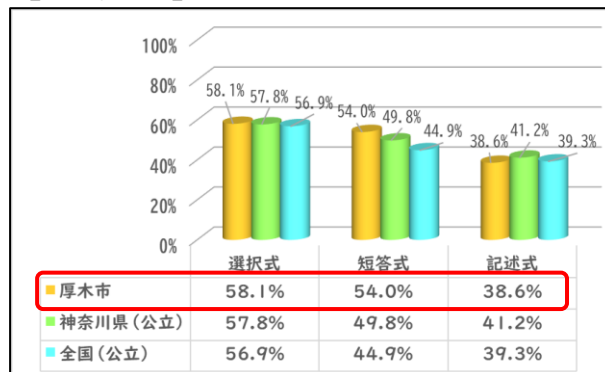
分類	学習指導要領の領域			
区分	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
厚木市	58.1	65.3	46.2	35.5
神奈川県(公立)	57.8	65.0	44.8	39.3
全国(公立)	56.1	63.2	44.8	37.3



【評価の観点】



【問題形式】



【IRT スコア集計値】

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
厚木市	513	129.4	373	430	499	584	665
神奈川県(公立)	510	124.3	368	429	501	580	659
全国(公立)	503	124.0	361	422	495	572	652

※ 標準偏差:集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばり度合い)を表す数値。

※ パーセンタイル:データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。小さい順から数えて、総数の1/4番目に当たる値が第一四分位(25 パーセンタイル)、真ん中に当たる値が第二四分位(中央値、50 パーセンタイル)、3/4番目に当たる値が第三四分位(75 パーセンタイル)となります。

【中学校 理科】本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

2 ストロー笛をつくり、音について科学的に探究する 設問(2)

〔出題の趣旨〕

ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

「エネルギー」を柱とする領域

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	96.6%	95.8%	94.6%	+2.0

収集する資料や情報の信頼性を確認する方法についての知識及び技能を身に付けていると考えられます。

【中学校 理科】全国(公立)の平均正答率との差が最も大きい問題

1 水をテーマに科学的に探究する 設問(5)

〔出題の趣旨〕

塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

「粒子」を柱とする領域

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	54.0%	49.8%	44.9%	+9.1

元素を記号で書き表すことに課題があると考えられます。

(平成27年度【中学校】数学 1 (1) 平均正答率74.5%)

(平成30年度【中学校】数学 8 (1) 平均正答率83.7%)

【中学校 理科】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

⑧ 身近な地域の大地の変化について科学的に探究する 設問(2)

〔出題の趣旨〕

大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

「地球」を柱とする領域

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	15.2%	18.6%	18.1%	-2.9

ボーリング調査の結果と関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題があると考えられます。

【中学校 理科】 本市、全国及び神奈川県において最も無解答率が高い問題

Ⅰ 水をテーマに科学的に探究する 設問(6)

〔出題の趣旨〕

科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

「粒子」を柱とする領域

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	81.6%	80.0%	79.4%	+2.2
無解答率	7.9%	9.3%	9.9%	-2.0

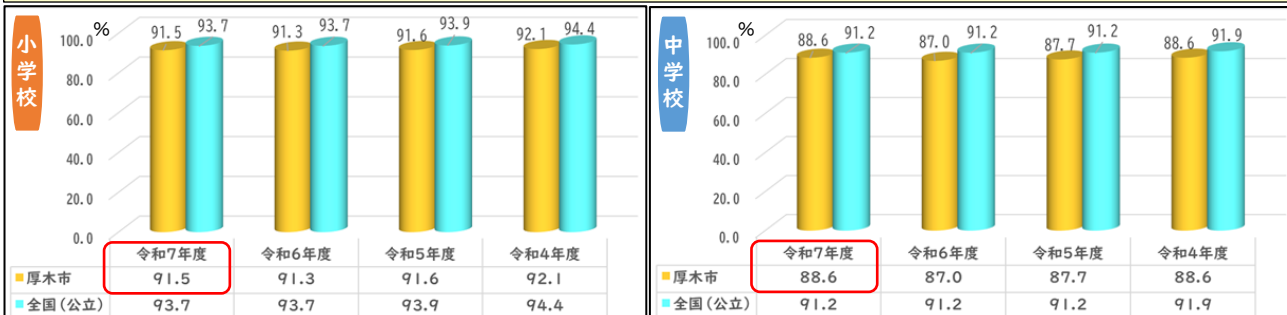
探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができていると考えられます。

4 児童・生徒質問調査の結果

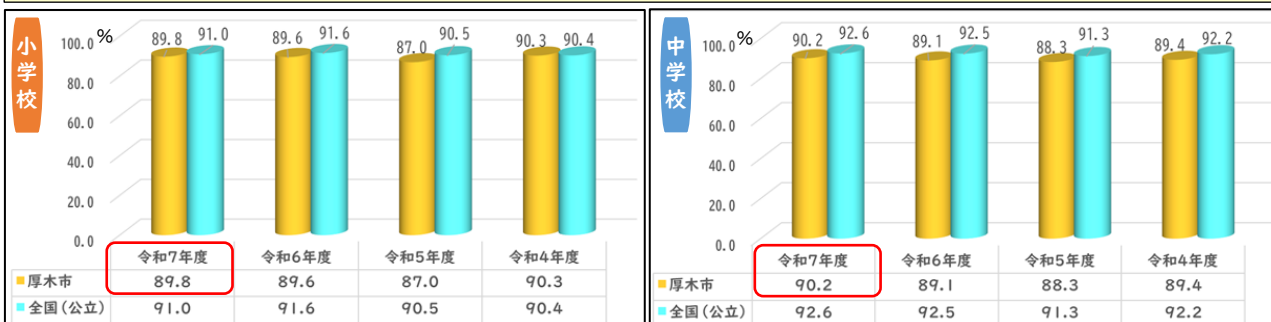
(1) 厚木市立小・中学校の児童・生徒の回答状況（肯定的な回答をした児童・生徒の割合が85%以上）について

ア 基本的生活習慣等について

質問1 朝食を毎日食べている（している・どちらかといえば、している）

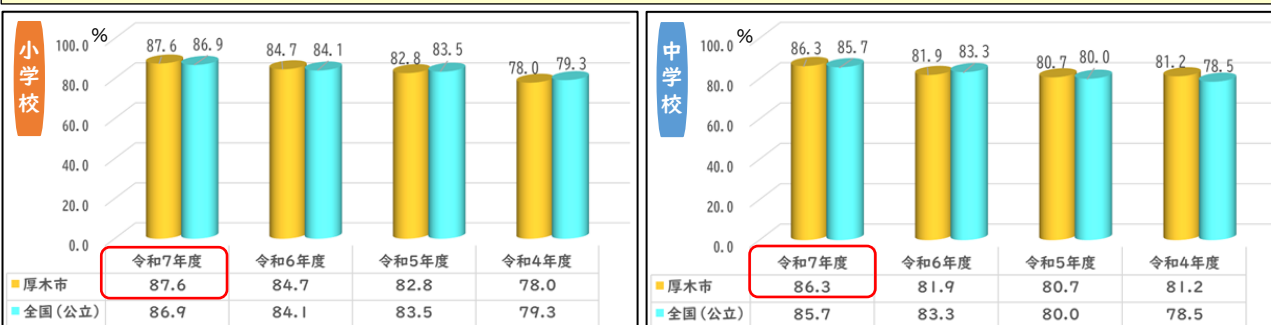


質問3 毎朝、同じくらいの時刻に起きている（している・どちらかといえば、している）

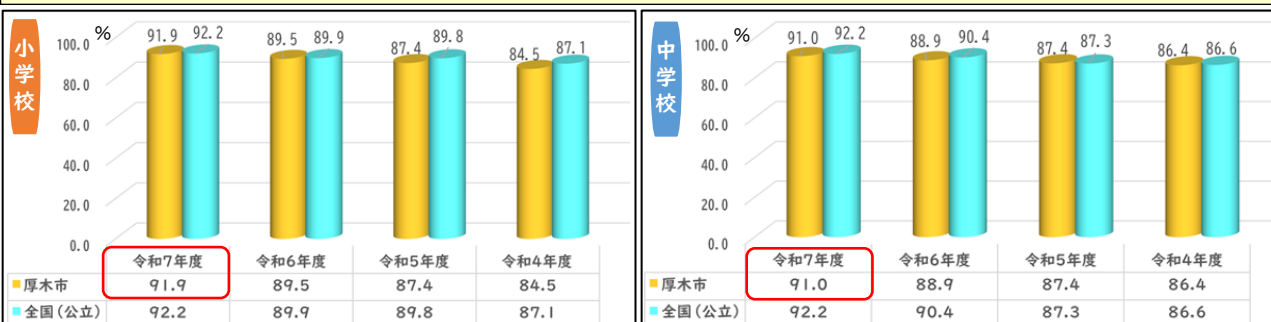


イ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

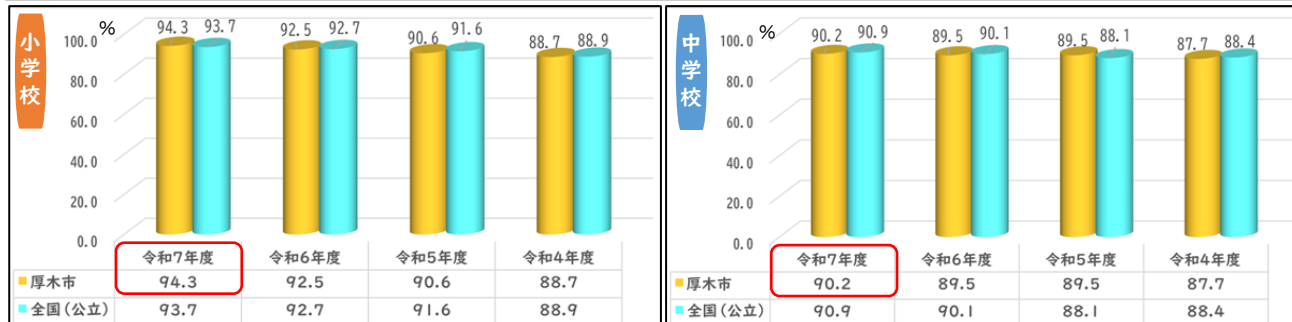
質問5 自分にはよいところがあると思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



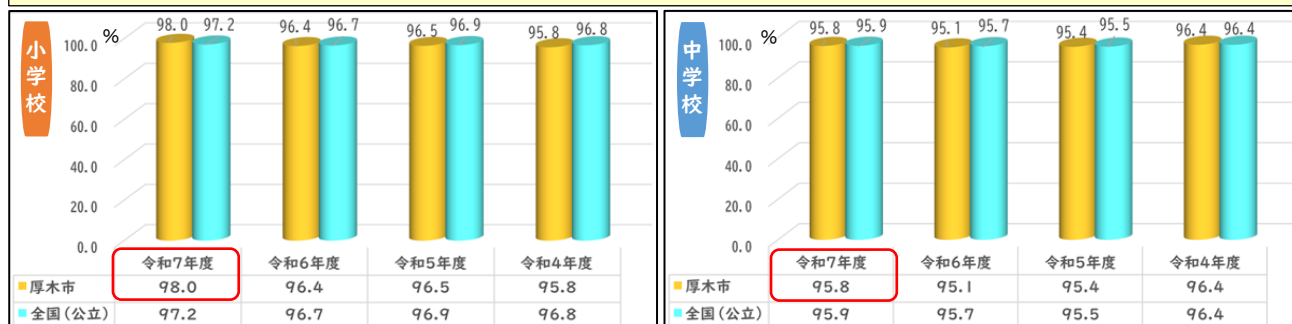
質問6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



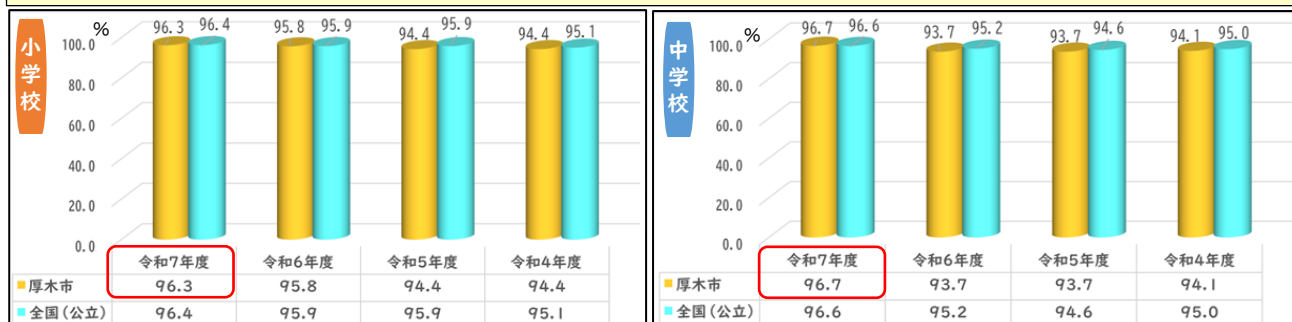
質問 8 人が困っているときは、進んで助けている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



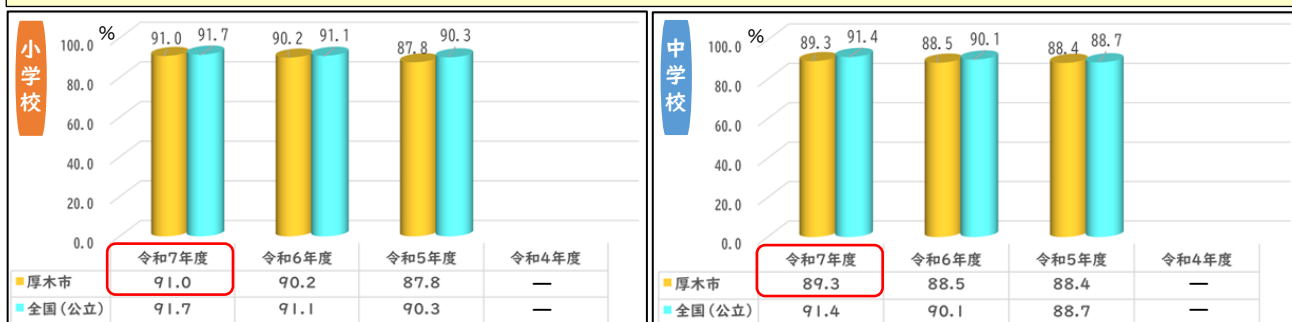
質問 9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



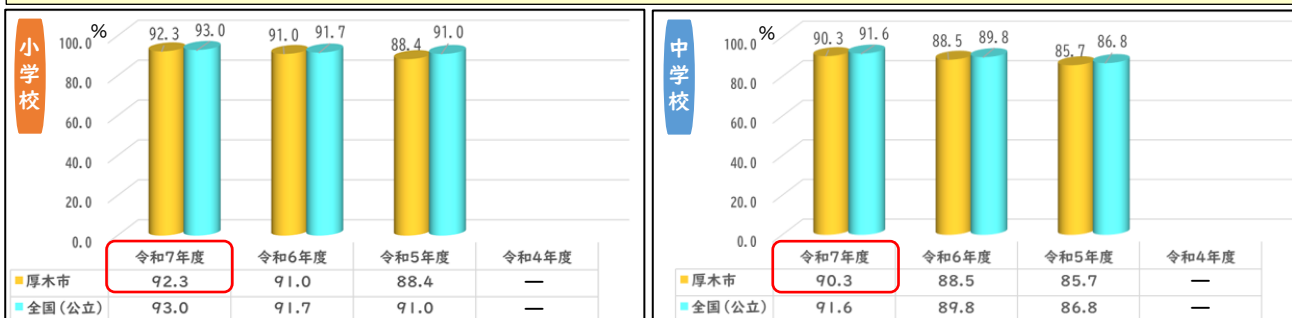
質問 11 人の役に立つ人間になりたいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 14 友達関係に満足している（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

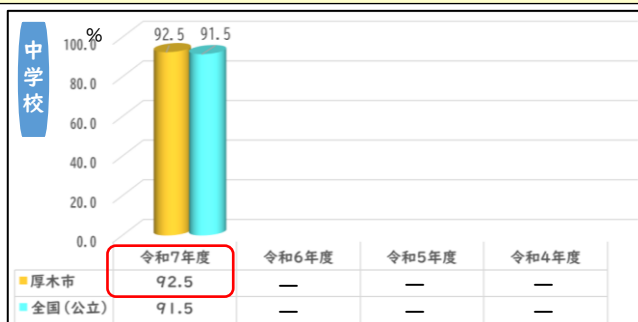


質問 15 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（よくある・ときどきある）

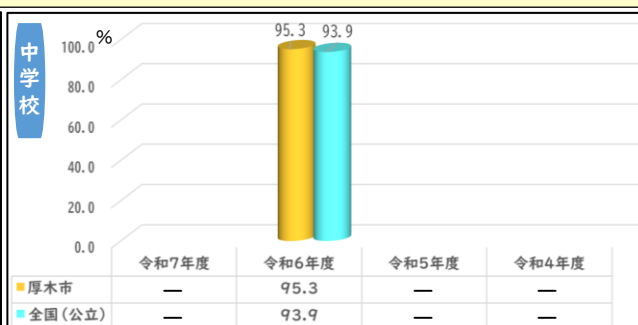
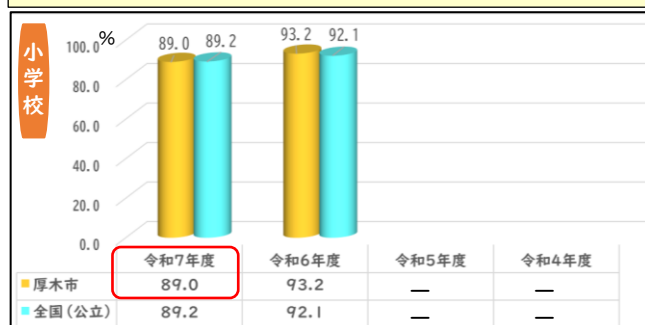


ウ ICT を活用した学習状況について

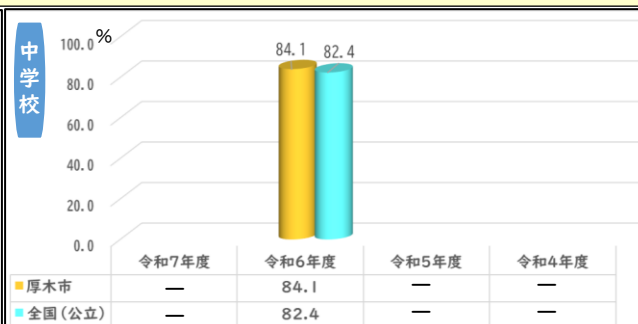
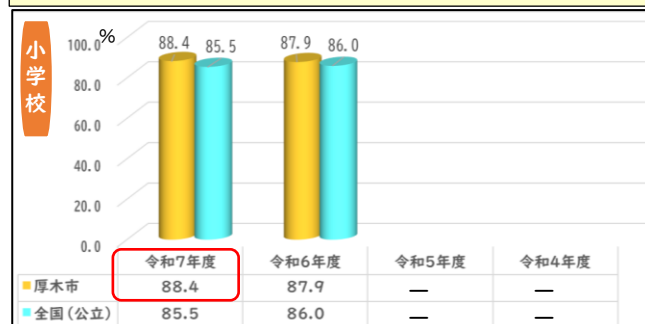
質問 29-2 あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。（とてもそう思う・そう思う）



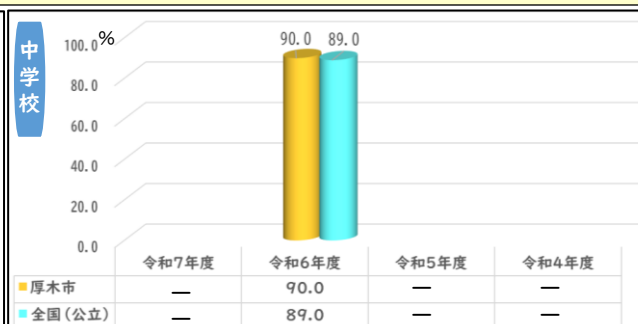
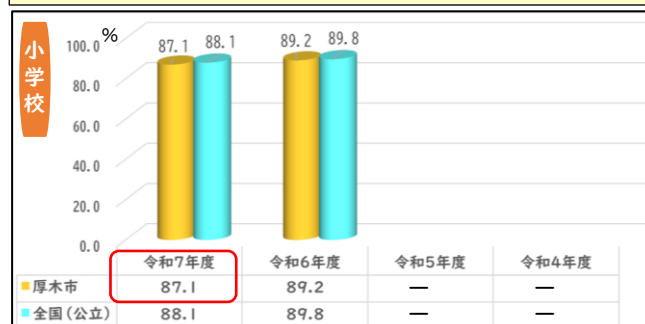
質問 30-2 ICT 機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる（とてもそう思う・そう思う）



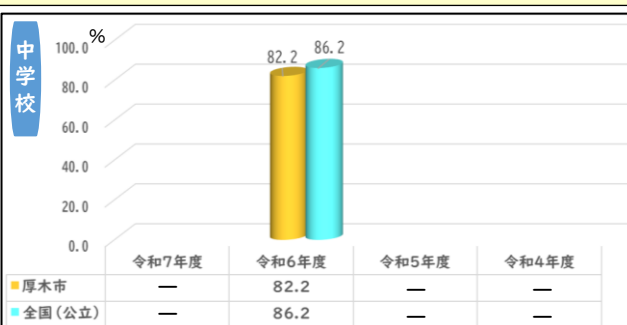
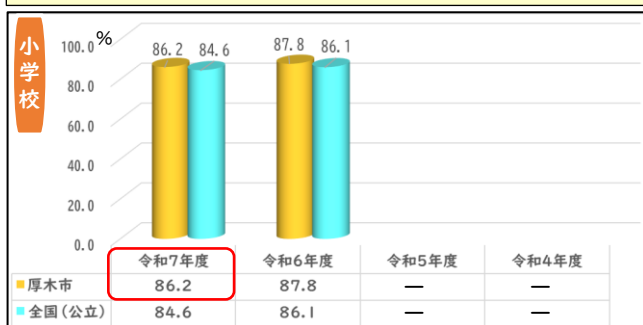
質問 30-3 ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる（とてもそう思う・そう思う）



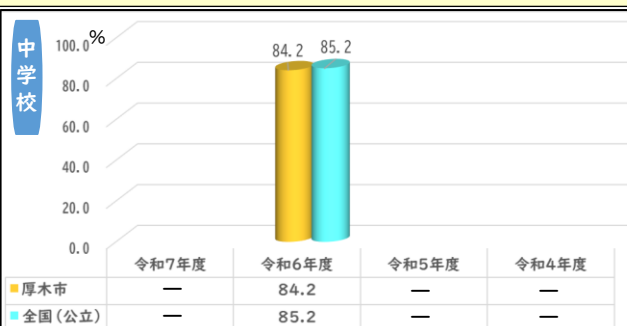
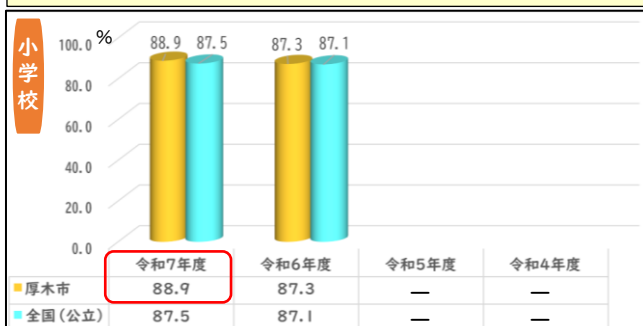
質問 30-4 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる（とてもそう思う・そう思う）



質問 30-6 ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
(とてもそう思う・そう思う)

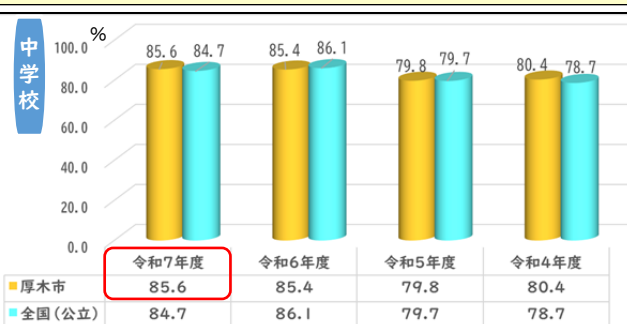
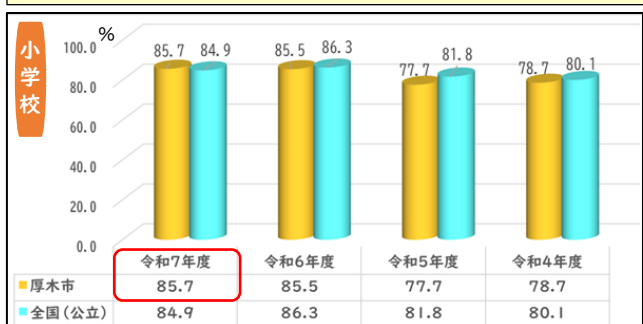


質問 30-7 ICT 機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)

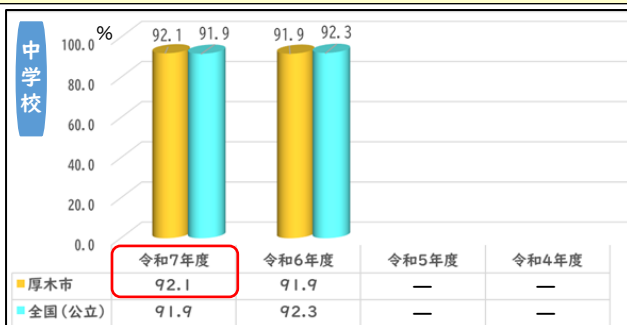
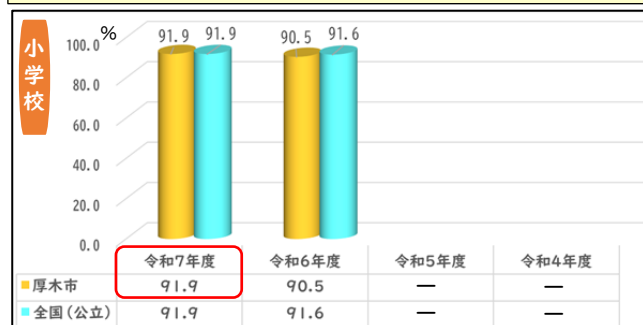


エ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

質問 35 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

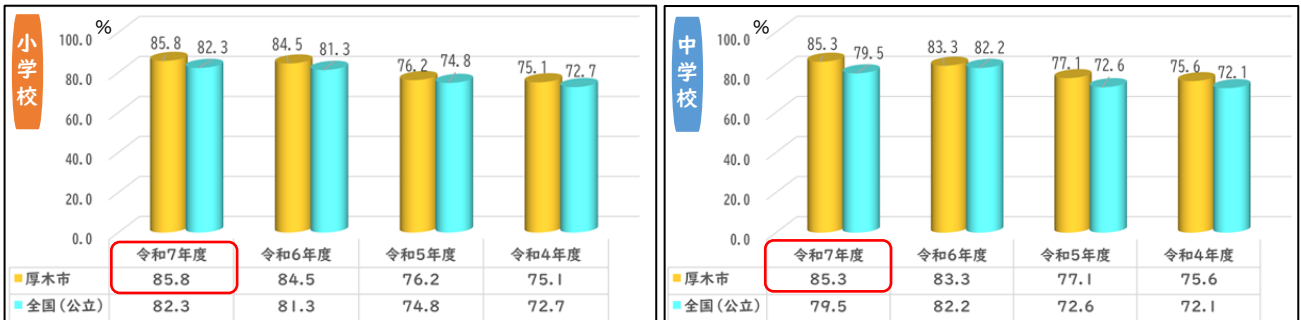


質問 39 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

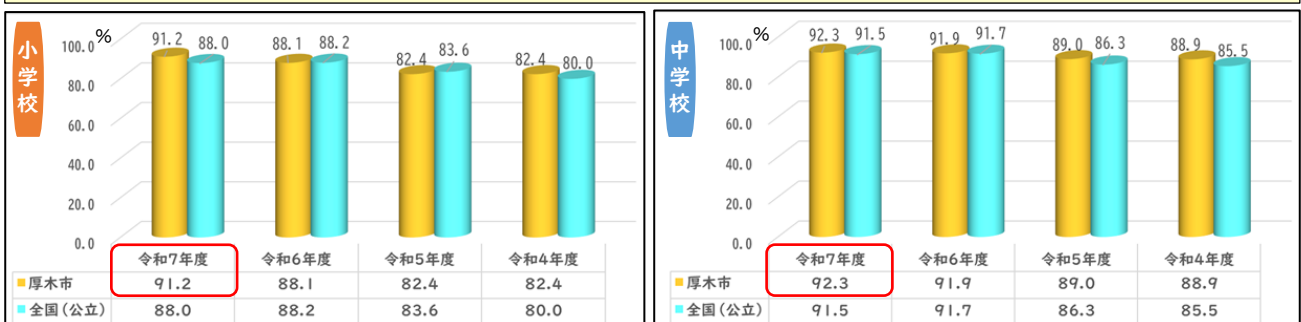


オ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳について

質問 40 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたいことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

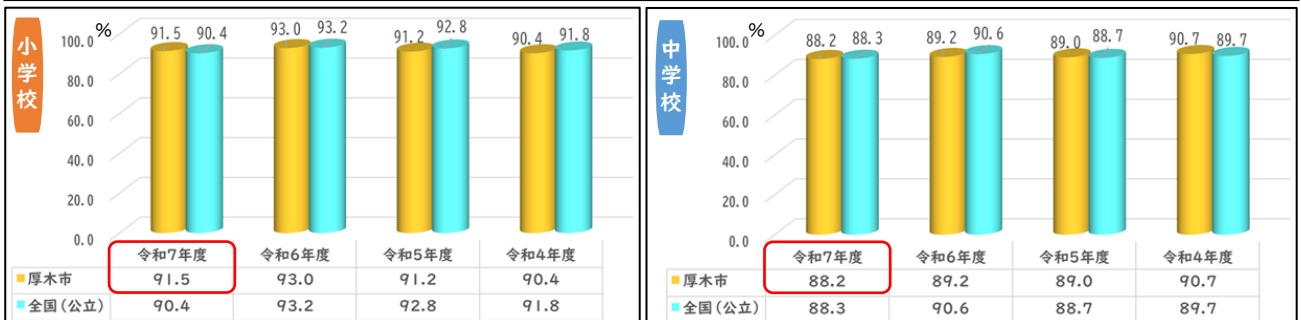


質問 43 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

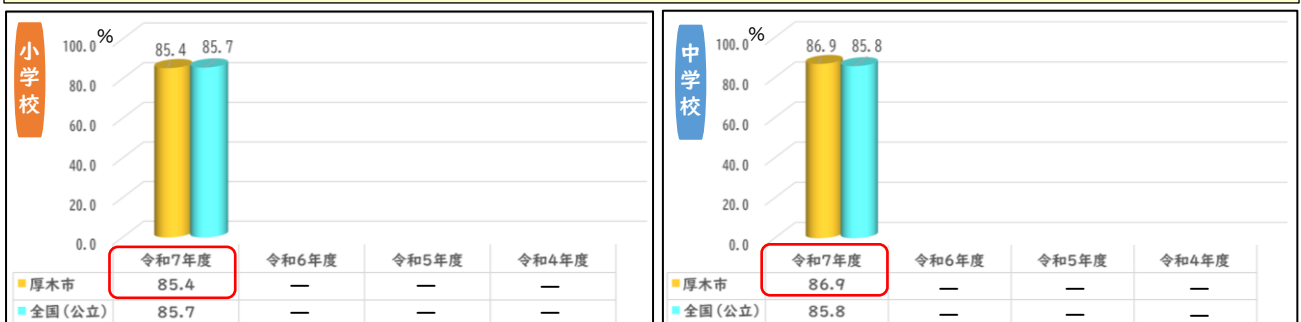


カ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等について

質問 47 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



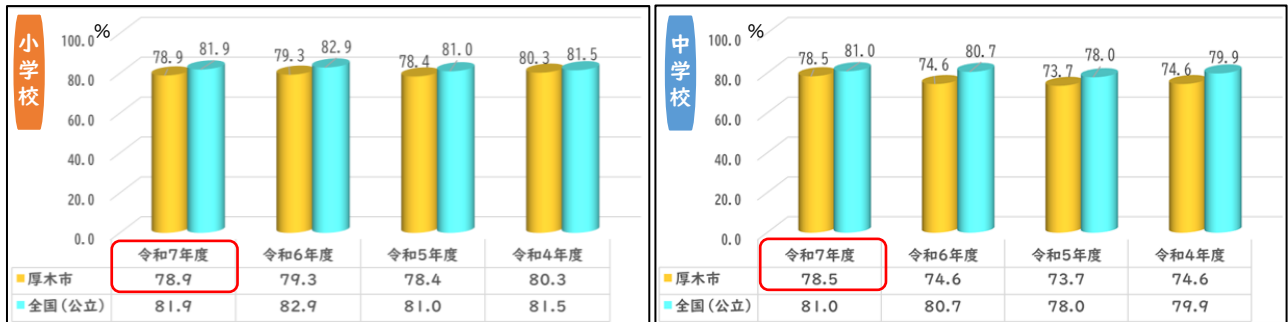
質問 67(68) 理科の授業では、観察や実験をよく行っている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



(2) その他の主な回答状況について

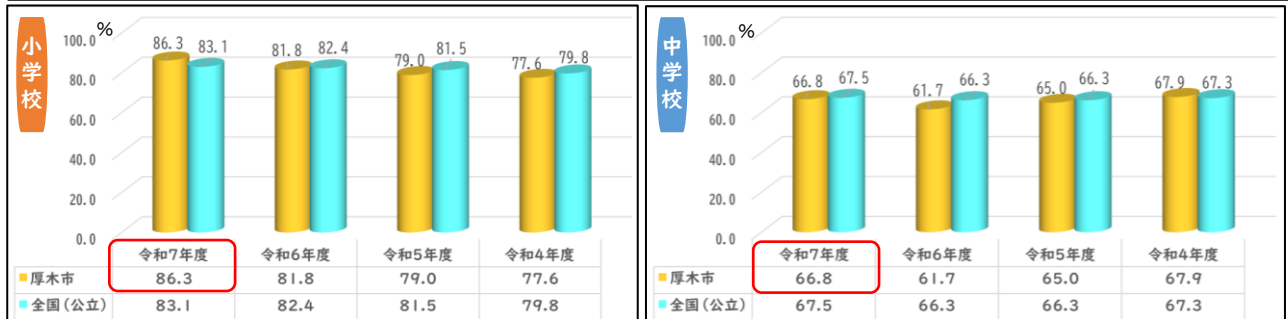
ア 基本的生活習慣等について

質問2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている（している・どちらかといえば、している）

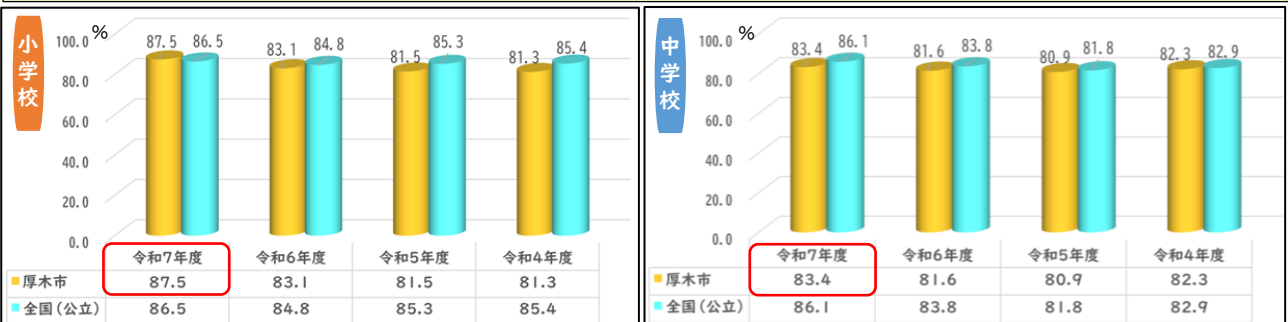


イ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

質問7 将来の夢や目標を持っている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

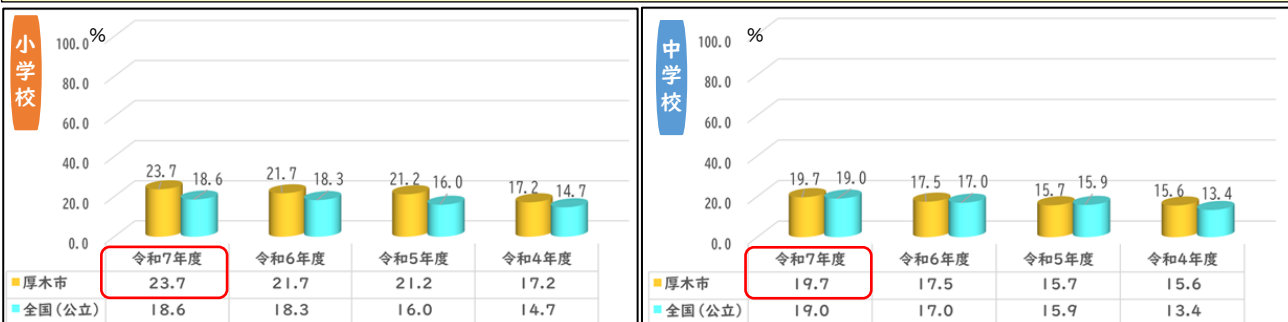


質問12 学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

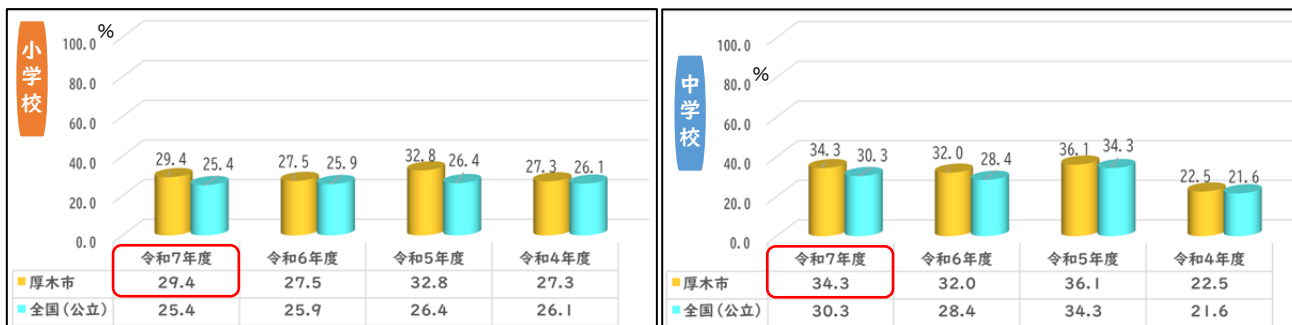


ウ 学習習慣、学習環境等について

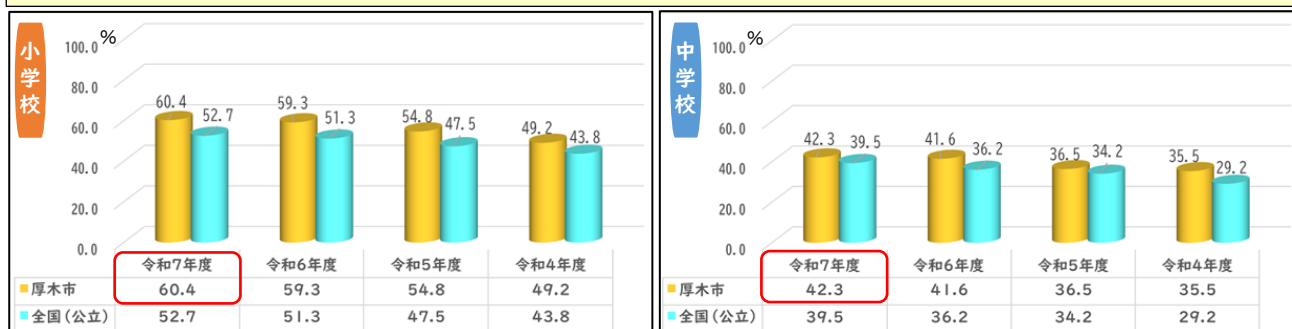
質問17 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。（30分未満）



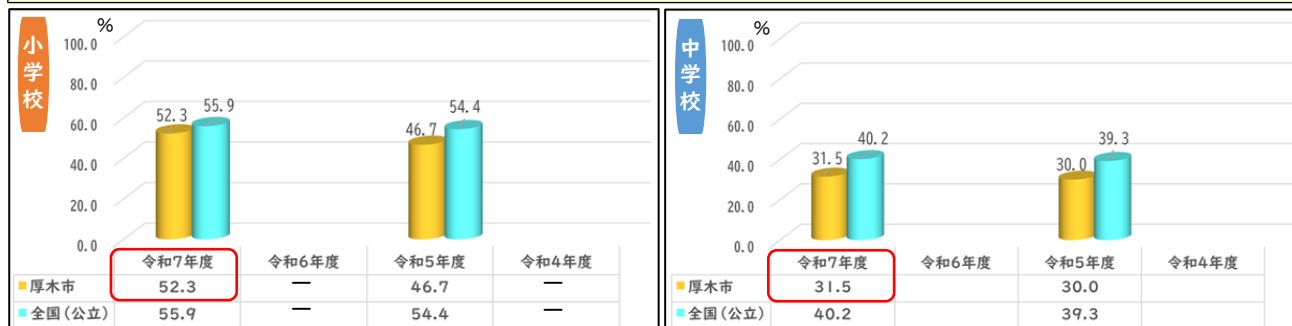
質問 18 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。（全く使っていない）



質問 19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。（1時間未満）

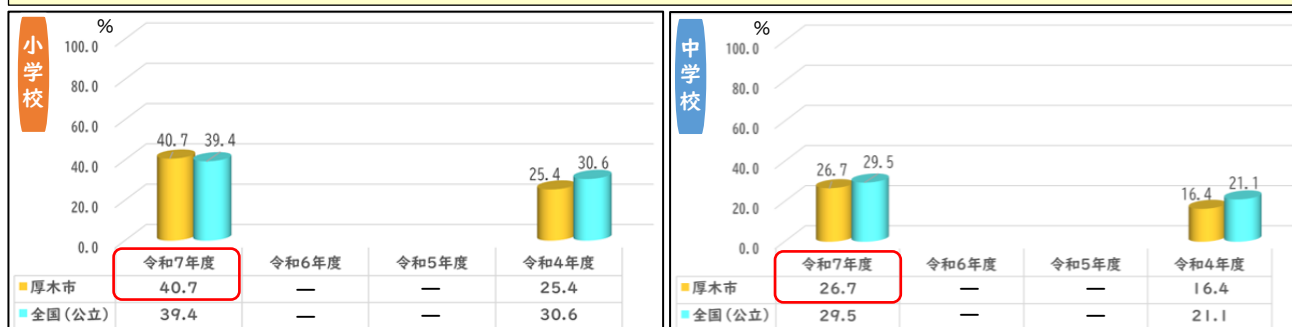


質問 20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含みます）。（教わっていない）

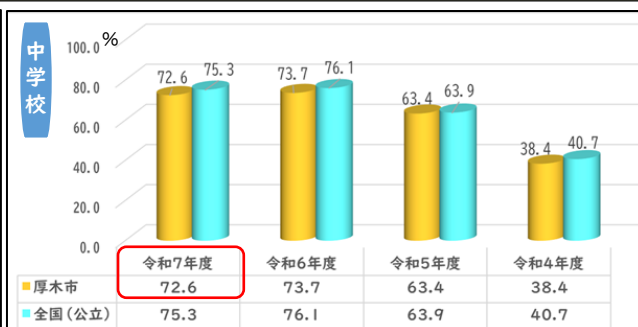
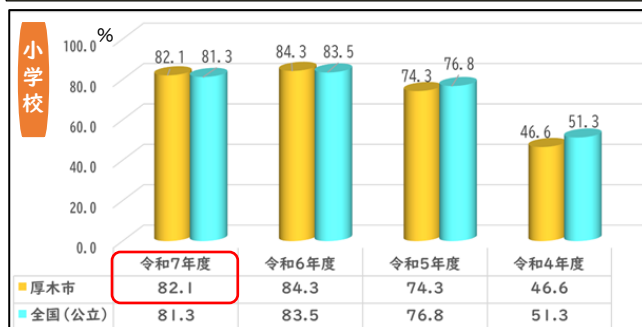


エ 地域や社会に関わる活動の状況等について

質問 26 地域の人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）。（よくある・ときどきある）

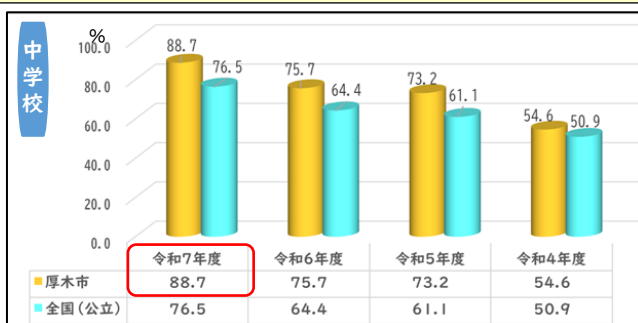
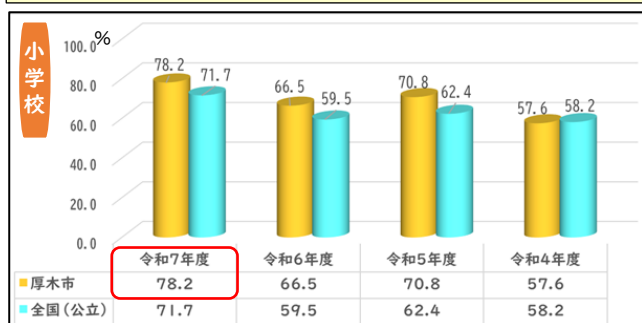


質問 27 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

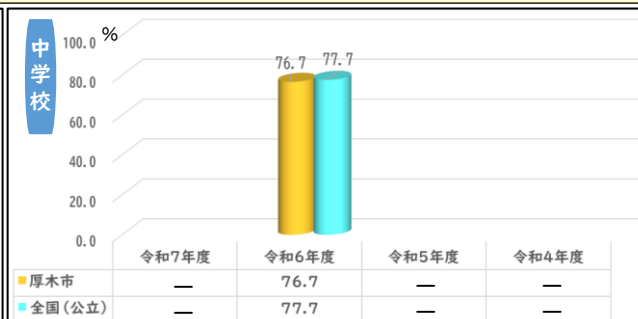
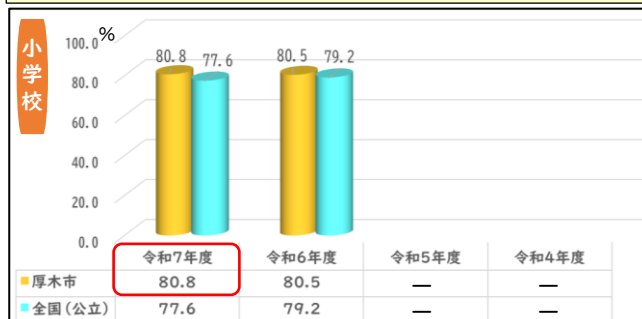


オ ICT を活用した学習状況について

質問 28 5年生までに受けた授業(中学校は、1、2年生までに受けた授業)で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(週3回以上)

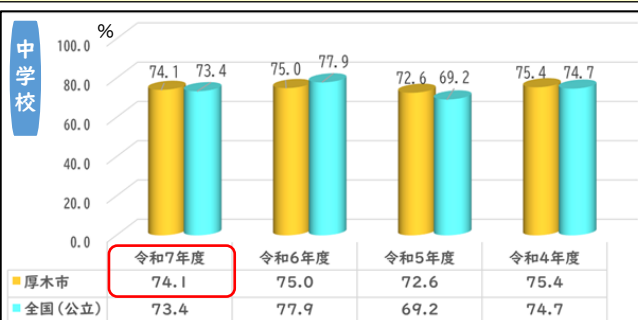
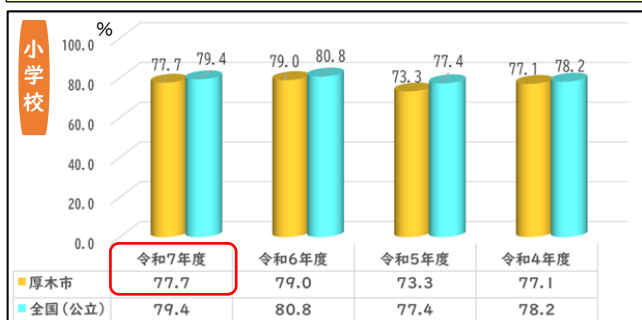


質問 30-5 ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
(とてもそう思う・そう思う)

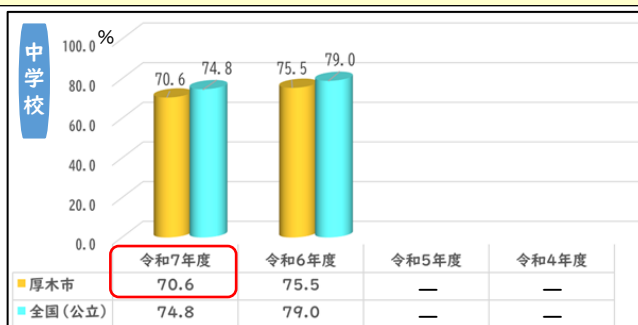
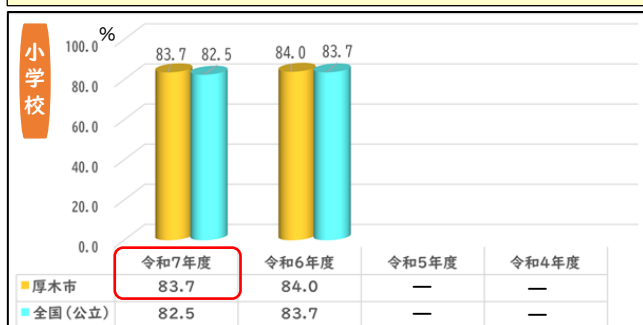


カ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

質問 36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

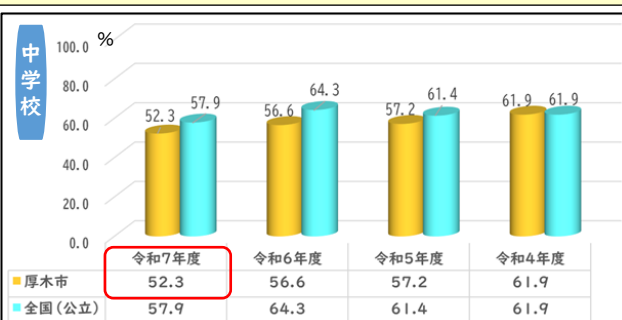
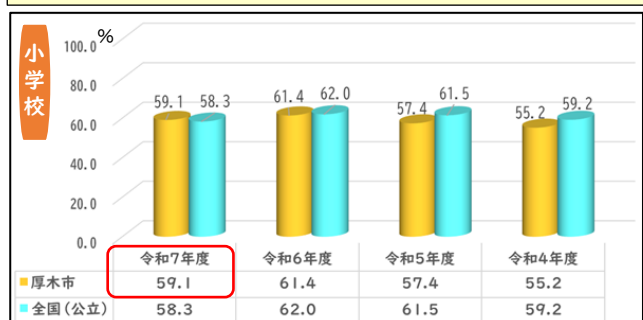


質問 37 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

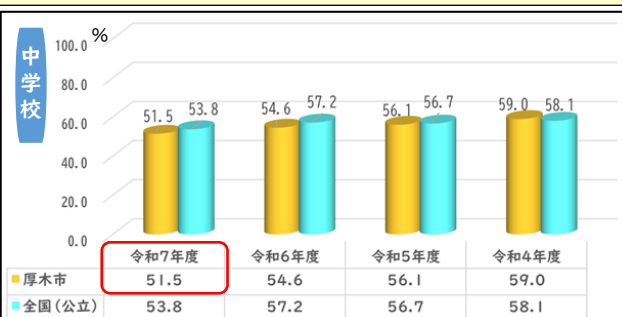
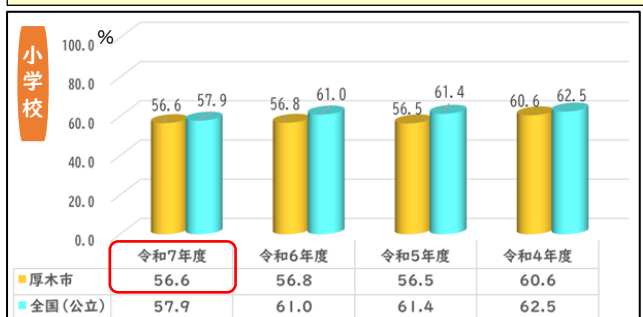


キ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等について

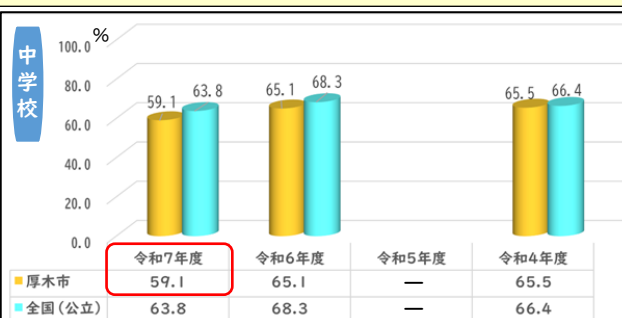
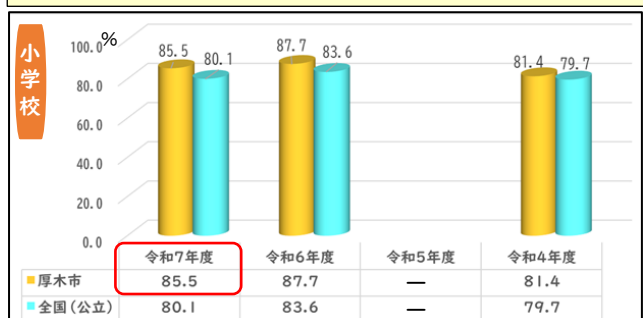
質問 45 国語の勉強は好きですか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 53 算数・数学の勉強は好きですか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 61 理科の勉強は好きですか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



5 考察

(1) 教科(国語、算数・数学、理科)に関する調査結果について

本市の市立小・中学校の平均正答率、平均 IRT スコア(中学校 理科のみ)等を見ると、全ての教科において、全国公立学校の平均値と大きな差は見られませんでした。

【参照】「文部科学省 国立教育政策研究所「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」」

○…比較的できている点 ●…課題のある点	
成果と課題	充実・改善のヒント
知識及び技能 <ul style="list-style-type: none"> ● 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。 	漢字の読み方や意味を考え、文や文章の中での正しい使い方を身に付ける活動を取り入れることが考えられます。特に今後は、ICT端末を使って文章を書く機会も増えることが予想されます。そのため、同音異義語から文章に合う漢字を選ぶ力を付けていくことも大切であると考えられます。
小学校 国語	
思考力、判断力、表現力等 <ul style="list-style-type: none"> ○ 図と言葉を合わせて示すことで、自分の考えが伝わりやすくなることを捉えることはできていると考えられます。 ● 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題があります。 	複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要であると考えられます。その際、各資料にある語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが考えられます。

○…比較的できている点 ●…課題のある点	
成果と課題	充実・改善のヒント
知識及び技能 <ul style="list-style-type: none"> ● 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに課題があると考えられます。 	作図の学習の際、図形を作図することができるようになるだけでなく、その手順や方法と図形の性質を関連付けて、図形の性質の理解を深めることができるようにすることが重要であると考えられます。また、コンパスは単に円をかくだけでなく、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具であることを理解できるようにすることも大切であると言えます。
小学校 算数	
思考力、判断力、表現力等 <ul style="list-style-type: none"> ○ 伴って変わる二つの数量に着目し、必用な数量を見いだすことはできていると考えられます。 ● 分数の加法について、共通する単位分数※を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを記述することに課題があると考えられます。 <p>※ 単位分数：もとにする大きさの分数</p>	分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法を使って計算することができるようになることが大切であると考えられます。例えば、加数と被加数の単位分数に着目して、既習の整数の加法を使って計算できるのかを考察する活動が考えられます。

○…比較的できている点 ●…課題のある点

知識及び技能	成果と課題	充実・改善のヒント
	<p>○ 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることが知識として身に付いていると考えられます。</p> <p>● 電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題があると考えられます。</p>	<p>「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多くあります。そこで、習得した知識を活用しながら実験に取り組んだり、得られた結果を振り返りながら、物質の性質に着目して、整理したりする学習活動を通して、物質の性質に関する理解を深めることが大切であると言えます。</p>
思考力、判断力、表現力等	小学校 理科	
	<p>● 水のしみ込み方の違いについて【結果】を基に考察し、【問題に対するまとめ】の理由を適切に表現することに課題があると考えられます。</p>	<p>児童によっては、自分の予想に沿って都合よく結果を解釈したり、結果を基にしながらかえを表現できなかったりすることもあります。そのため、全体の結果を基に、より妥当な考えが作りだせるよう、1人1台端末を活用し、結果を即時的に共有したり、表からグラフに整理したりして、結果を踏まえながら指導することが考えられます。</p>

中学校 国語

○…比較的できている点 ●…課題のある点

思考力、判断力、表現力等	成果と課題	充実・改善のヒント
	<p>○ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできていると考えられます。</p> <p>● 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては引き続き課題があると考えられます。</p> <p>● 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題があると考えられます。</p>	<p>・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められます。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要であると考えられます。</p> <p>・書いた文章を推敲する際には、伝えようとして伝えるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるように指導することが大切であると考えられます。</p>

○…比較的できている点 ●…課題のある点

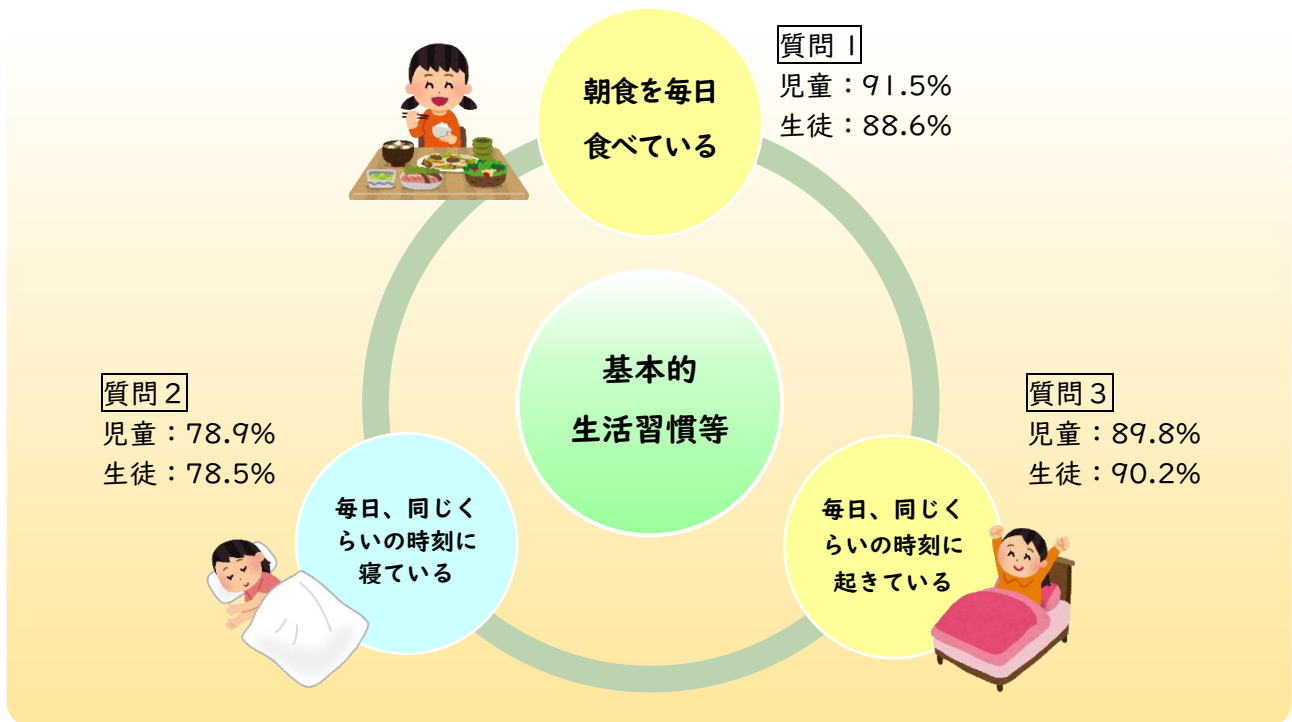
知識及び技能	成果と課題	充実・改善のヒント
	<p>○ 必ず起こる事柄の確率について理解できていると考えられます。</p> <p>● 相対度数の意味の理解については、引き続き課題があると考えられます。</p>	<p>ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解し、用語を適切に用いることができるように指導することが大切であると考えられます。</p>
<p>思考力、判断力、表現力等</p>		
<p>中学校 数学</p>		
<p>● 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題があると考えられます。</p>		
<p>問題解決の見通しを立てる場面において自分の考えた解決の方法（例えば、表、式、グラフをどのように用いればよいか）を表現したり、問題解決を振り返る場面においてどのような方法で解決したのかをまとめたりすることが大切です。その際、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動を取り入れることが考えられます。</p>		

○…比較的できている点 ●…課題のある点

知識及び技能	成果と課題	充実・改善のヒント
	<p>○ 収集する資料や情報の信頼性を確認する方法についての知識及び技能を身に付けていると考えられます。</p> <p>● 元素を記号で書き表すことに課題があると考えられます。</p>	<p>指導に当たっては、例えばスポーツ飲料や洗剤、入浴剤等の成分表示の中に元素記号が記載されていることに気付かせるなど、身の回りの生活の中で元素記号が使われていることを実感させる学習場面を設定することが考えられます。その際、物質やその変化を記述したり理解したりするために元素記号を用いることは有効であることに気付くよう促すことも大切であると言えます。</p>
<p>思考力、判断力、表現力等</p>		
<p>中学校 理科</p>		
<p>○ 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができていると考えられます。</p> <p>● ボーリング調査の結果と関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題があると考えられます。</p>		
<p>ボーリング調査の結果が、地盤の安全性の評価やハザードマップの作成に活用されていることに触れ、大地の変化に関する学習と日々の安全な生活とのつながりに気付くようにすることが大切であると言えます。指導に当たっては、離れた地点の幾つかの地層を比較したり、地層モデルを活用したりするなどの体験活動を通して、地層の広がり方や傾きを空間的な視点で捉える場面を設定することが考えられます。</p>		

(2) 児童・生徒質問調査の結果について

ア 基本的生活習慣等について

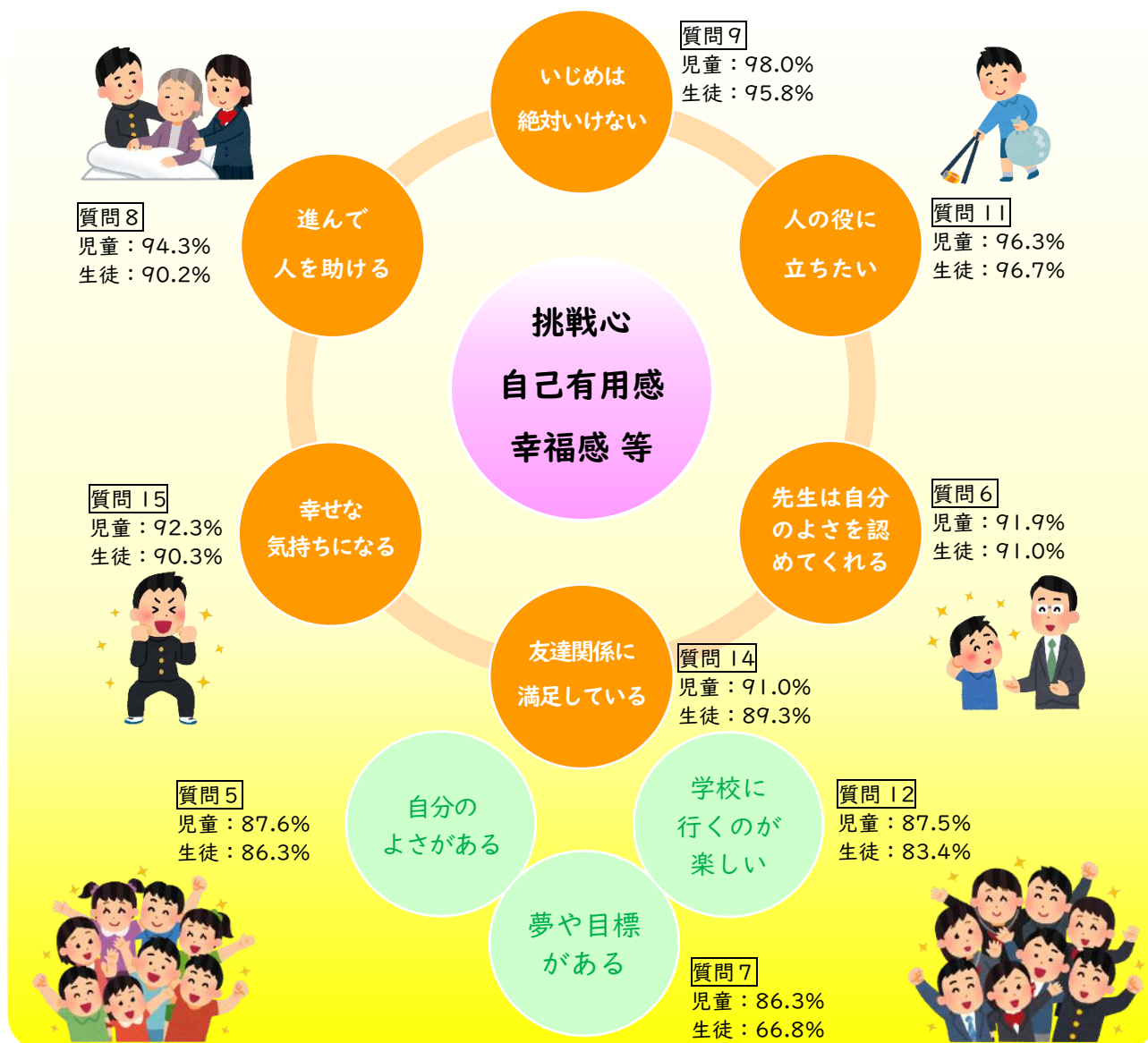


本市の児童・生徒の強み 児童・生徒質問調査の質問1及び質問3について、約9割の児童・生徒が肯定的な回答をしています。このことから、本市では、多くの児童・生徒が、家庭の支えを得ながら、毎日、ほぼ決まった時刻に起き、朝食を食べるという規則正しい生活を送ることができていると考えられます。これは、本市の児童・生徒の強みであると言えます。

一方で、質問2について肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、昨年度に引き続き全国（公立）の回答率よりも低い値となっています。

児童・生徒が生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができる力を身に付けるためには、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることや、自らの健康状態を把握し、望ましい基本的な生活習慣を定着させることが大切であると考えられます。そして、この実現には、家庭の支えが重要になると考えられます。

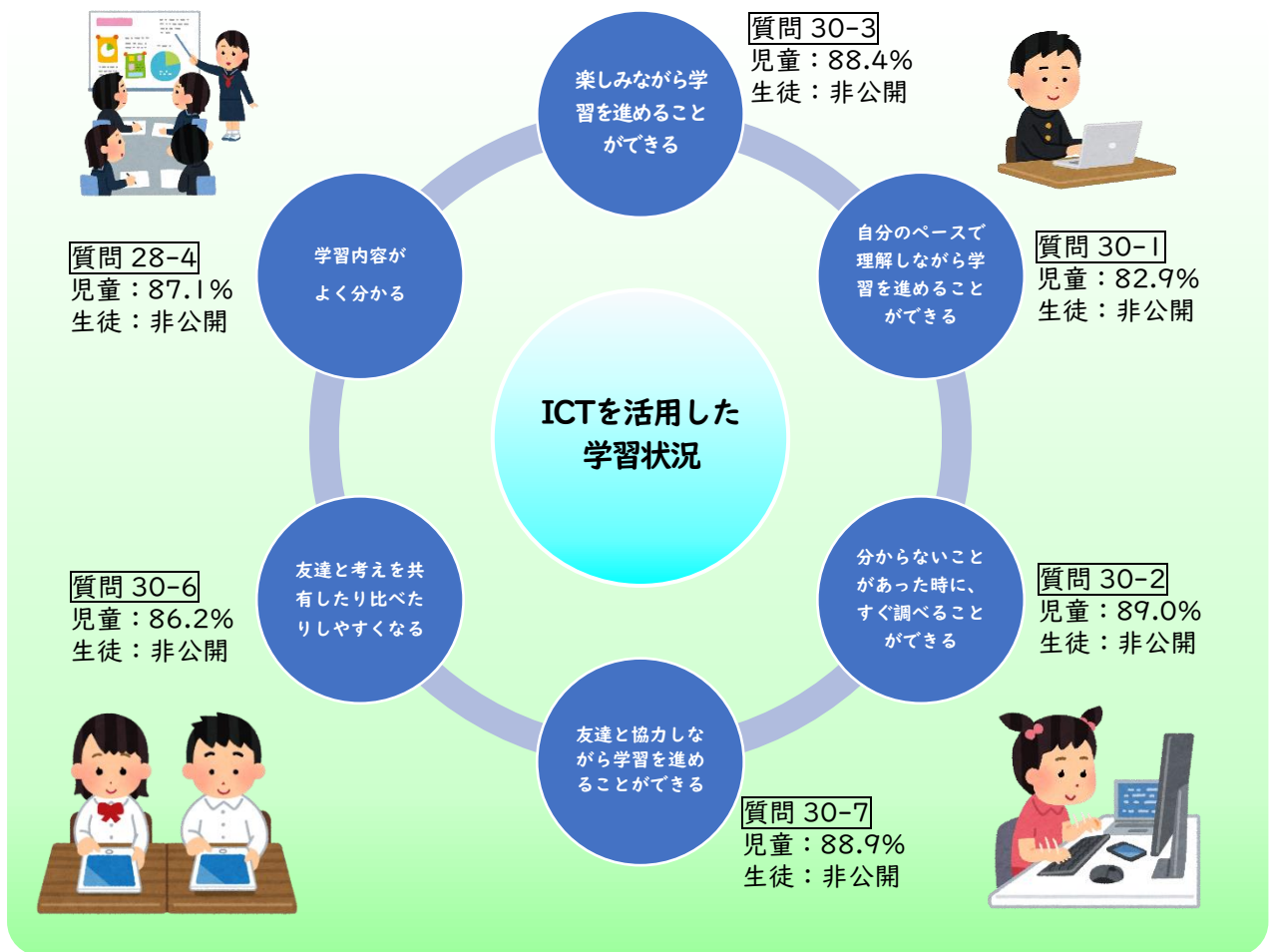
イ 挑戦心、自己有用感、幸福感等について



本市の児童・生徒の強み 上記の挑戦心や自己有用感、幸福感等に関連する児童・生徒質問調査すべてについて、肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、昨年度に比べて増えています。このことから、本市では、挑戦心や自己有用感、幸福感等が育まれるような学級・学校環境の中で学校生活を送る児童・生徒が多いと考えられます。また、自他を大切にし、互いに認め合い、支え合う人間関係づくりが進んでいると考えられます。これは、本市の児童・生徒の強みであると言えます。

今後も、人間尊重の精神を基盤として、全ての教育活動を通して、児童・生徒の発達の段階に応じた人権教育の充実を図り、あらゆる立場の人がお互いにかげがえのない人として尊重し合い、多様性を認め合える児童・生徒の育成が求められると言えます。

ウ ICTを活用した学習状況について



【ICT 機器の積極的な活用】

本市の児童・生徒の強み ICT 機器の活用回数（週3回以上に回答）についての児童・生徒質問調査（質問 28）では、小学校（5年生までに受けた授業）及び中学校（1、2年生までに受けた授業）ともに全国平均を上回っており、日々の授業の中で児童・生徒が ICT 機器を頻繁に活用している様子がうかがえます。小学校では、昨年度調査に比べて 11.7 ポイント増加、中学校では 13.0 ポイント増加しています。これは、本市の強みであると言えます。

【ICT を活用する自信】

（単位：%）

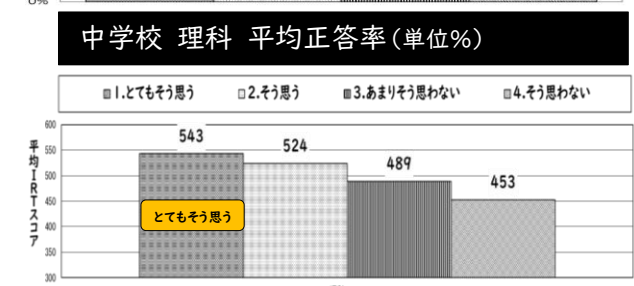
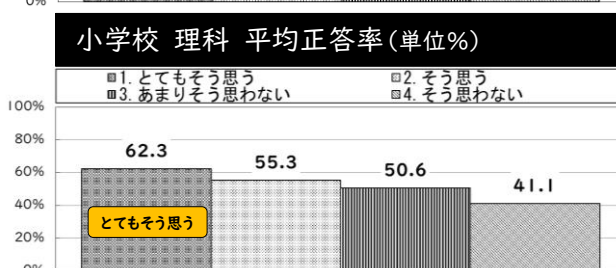
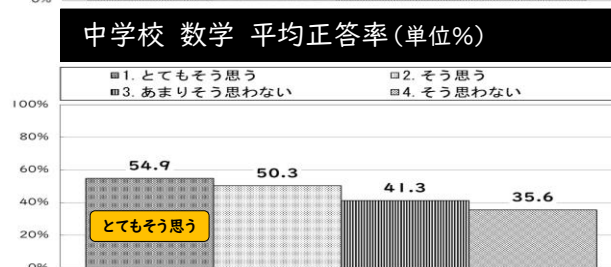
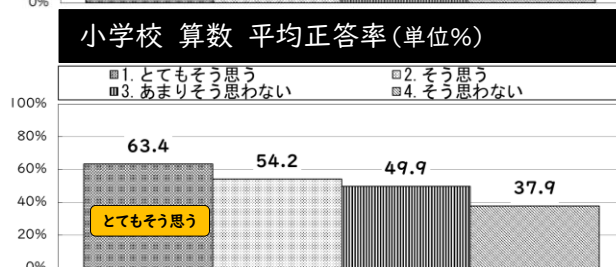
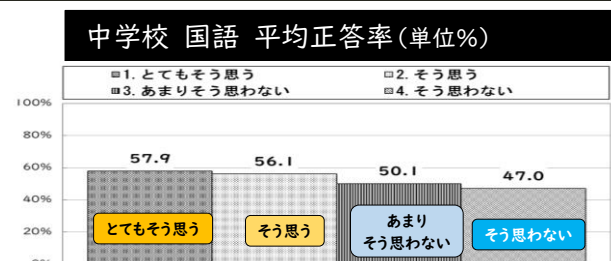
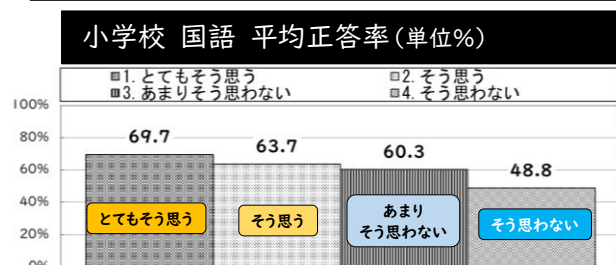
児童・生徒質問調査 質問	厚木市立 小学校	全国（公立） 小学校	厚木市立 中学校	全国（公立） 中学校
(29-1) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。	83.2	81.8	86.7	83.6
(29-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。	91.2	89.8	92.5	91.5
(29-3) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	71.5	69.3	64.2	63.3
(29-4) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。	81.6	76.7	81.6	76.6

本市の児童・生徒の強み 前記の児童・生徒質問調査の結果（肯定的な回答をした児童・生徒の割合、単位は％）から、8割以上の児童・生徒が、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、文章を作成したり、情報を収集したり、学校においてプレゼンテーション（発表のスライド）を作成したりすることに自信があると回答していることがわかります。このことから、児童・生徒が、いつでも、どこでも、必用な時に使える“道具”としてICT機器を活用することができていると考えられます。

一方、質問29-3について肯定的に回答した児童・生徒の割合は、他の質問の結果に比べて低い値となっています。図、表、グラフ、思考ツールなどを使う目的や必要性を明らかにし、目的に応じた情報の整理の仕方等を身に付けさせる指導が考えられます。

〔参考〕令和7年度全国学力・学習状況調査 クロス集計〔児童・生徒質問－教科〕

質問29-3 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。



上記のクロス集計分析結果から、PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことについて自信がある（肯定的な回答をしている）児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高くなっていることがわかります。

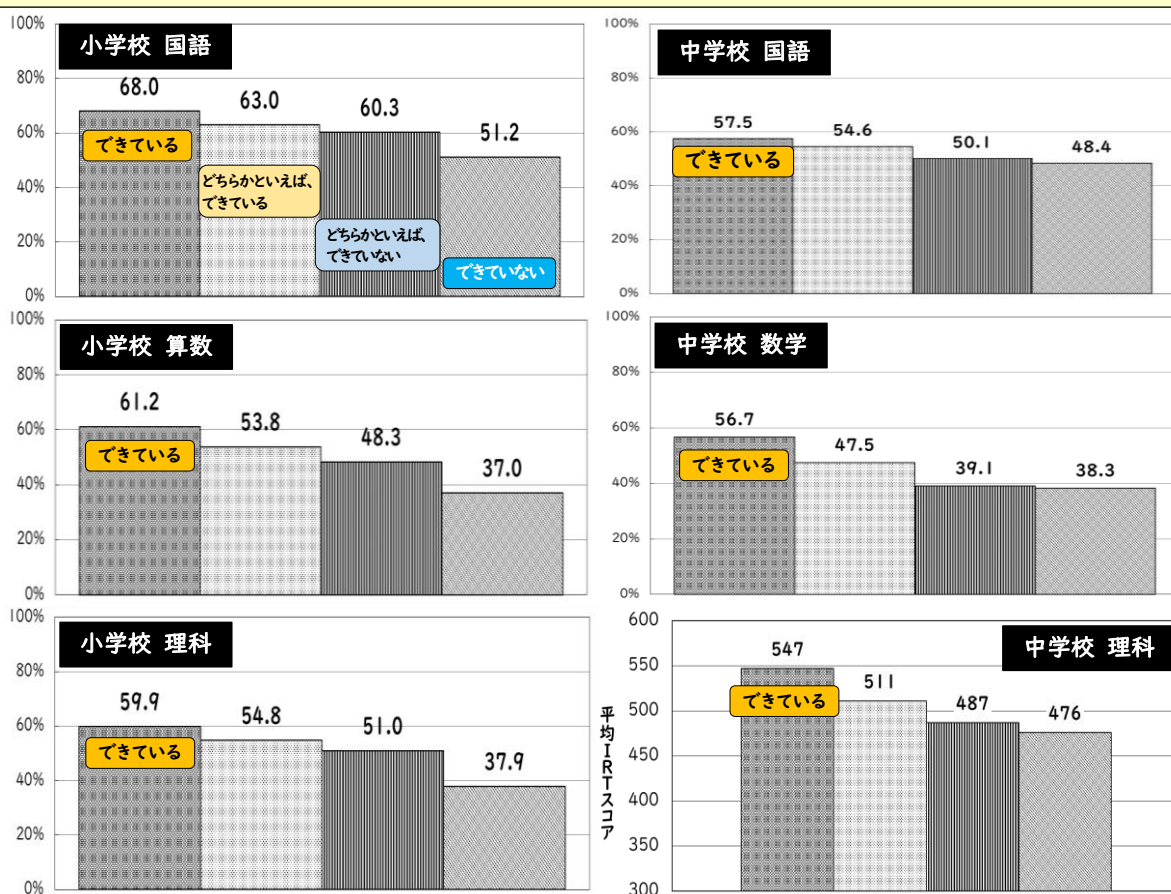
なお、クロス集計は、相関関係（※）がみられるかを分析したものであり、因果関係を示したものではありませんことに留意が必要です。

※ 2つの項目の間の何らかの関係性のことをいいます。

6 あつぎの学びの充実・改善のヒント

【児童・生徒質問と教科の平均正答率とのクロス集計分析結果より】

質問 16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



上のグラフは、学習習慣、学習環境等に関する児童・生徒質問調査（質問 16）と教科の平均正答率・平均 IRT スコアとのクロス集計分析結果を表したものです。どの教科においても、肯定的な回答をしている児童・生徒ほど平均正答率・平均 IRT スコアが高いことがわかります。このことから、主体的な学習の調整をすることができていると考える児童・生徒ほど平均正答率・平均 IRT スコアが高くなる傾向があることが考えられます。このような相関関係は、下記の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する児童・生徒質問調査と教科の平均正答率・平均 IRT スコアとのクロス集計分析結果においても見ることができます。

質問 31 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

質問 36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

質問 37 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか

資質・能力の確実な育成に向けて、学習指導要領には「社会に開かれた教育課程」の実現が重要であり、児童・生徒が、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「指導・生徒一人一人の発達をどのように支援するか」、「何が身に付いたか」、「実践するために何が必要か」の視点から、教育課程に基づく日々の教育活動を展開することが示されています。



厚木市教育委員会